

教員業績データベース(公表)

データ最終更新日 2015年6月29日

氏名	石上文正		
専門	メディア英語、批判的ディスコース分析理論、空間論・身体論		
学位	修士(master's degree)		
学歴	1974年3月	北海道大学経済学部卒業	
	1975年6月	California State University, Hayward 人類学部大学院(修士課程)入学	
	1978年6月	上記大学院(修士課程)卒業 (M.A.取得)	
研究業績	博士学位論文		
	5年以内の学術論文		
	「宮崎アニメにおける制作された<世界>」(『こころとことば』第9号、人間環境大学、2010年3月31日、pp.1~14)		
	「『環境』の定義について」(『人間と環境 電子版』No.1、人間環境大学、2011年2月28日 <a href="http://ci.nii.ac.jp/naid/120005548953">http://ci.nii.ac.jp/naid/120005548953</a> pp.1-19)		
	「『雪国』の英語訳を通してみる翻訳における壁について」(『人間と環境』第1号、人間環境大学、2011年3月31日、pp.1~22)		
	「インフルエンザ・パンデミックは、いかに伝えられたか」(『人間と環境 電子版』No.2、人間環境大学、2011年8月15日) <a href="http://kiyou.uhe.ac.jp/JHES2_2.pdf">http://kiyou.uhe.ac.jp/JHES2_2.pdf</a> pp.1-20		
	「van Dijkの一貫性(coherence)理論について」(『人間と環境 電子版』No.3、人間環境大学、2012年2月29日) <a href="http://ci.nii.ac.jp/naid/120005548958">http://ci.nii.ac.jp/naid/120005548958</a> pp.1-17)		
	「映画『男はつらいよ』シリーズの批判的ディスコース分析と社会分析——寅さんの両義性について——」(『人間と環境 電子版』No.9、人間環境大学、2015年3月31日 <a href="http://ci.nii.ac.jp/naid/110009910048">http://ci.nii.ac.jp/naid/110009910048</a> pp.1-22)		
	著書 (学術)	単著	
		共著	「ディコンストラクト(脱構築)された世界としての『雪国』——<女/男>二項対立構造を中心に——」(『ディスコースにおける「らしさ」の表象』神田康子・高木佐知子編著 大阪公立大学共同出版会、2013年7月7日、pp.165-197) 「リップマンの「疑似環境論」を言語化の視点から再考する——新たな疑似環境論にむけて——」(『メディア英語研究への招待』川原清志、金井啓子、仲西恭子、南津佳広編著 金星堂)
	著書 (その他)	単著	
		共著	
	学術論文	単著	
		共著	ファーストオーサー
特別の役割			
その他			

<p>確認された被引用論文 (引用論文、件数など)</p>	<p>被引用論文:「フレーム分析の可能性について-9.11テロ・イラク戦争関連の報道を中心に」(引用件数1)の引用論文:「ブッシュ米大統領の第二期就任演説の批判的ディスコース分析」(村上直久)、被引用論文:「Critical discourse analysis と framework analysis の接点を求めて」(引用件数1)の引用論文「ブッシュ米大統領の第二期就任演説の批判的ディスコース分析」(村上直久)、被引用文献「フレームと一貫性について-イラク刑務所における虐待問題記事を中心に」(引用件数1)の引用文献「ブッシュ米大統領の第二期就任演説の批判的ディスコース分析」(村上直久)、被引用論文:「『環境』の定義について」(引用回数1)の引用論文:「環境と作業療法」(高森聖人)、被引用論文:「岡崎市のイメージ」(引用件数1)の引用文献:「鳥取市のイメージ-鳥取環境大生の手描き地図とケヴィン・リンチの5つのエレメントに基づいて-」(張漢賢, 奥村俊彰)、被引用書籍:『空間と身体——考現人間学のアプローチ——』(引用件数1)の引用論文“Home Buddhas: Historical Processes and Modes of Representation of the Sacred in the Japanese Buddhist Family Altar (Butsudan)”(Fabio Rambelli)、被引用論文:「英語マスメディアに見る日米投資摩擦のイメージの変容」(引用件数1)の引用論文「90年代TIME誌記事における対日、対中イメージの比較」(相田洋明)、「宮崎アニメにおける制作された&lt;世界&gt;」(引用件数1)の引用(学位)論文「ファンタジー要素からみる宮崎駿の&lt;ふしぎな世界&gt;」(謝佳芸)</p>
<p>その他</p>	
<p>翻訳</p>	<p>(共訳)『ディスコースを分析する——社会研究のためのテキスト分析』ノーマン・フェアクラフ著、くろしお出版、2012年、2月 (Analysing Discourse: Textual analysis for Social Research)</p>
<p>教科書等</p>	
<p>外部研究資金 獲得状況 (学術振興会特別研究員など)</p>	
<p>学術に関する受賞歴</p>	<p>第1回日本メディア英語学会学会賞 2013年11月10日</p>
<p>所属学会</p>	<p>日本メディア英語学会</p>
<p>社会的活動の状況</p>	
<p>大学設置・学校法人審議会 科目担当審査経歴 (科目、年月)</p>	<p>大学教授として:社会・文化環境論講義、社会・文化環境論特殊講義Ⅰ(言葉と文化の形成)、社会・文化環境論特殊講義Ⅱ(身体と空間)、社会・文化環境論演習Ⅰ、社会・文化環境論演習Ⅱ、社会・文化環境論プロゼミナール、英語(4)、時事英語、(平成11年、8月)</p>
<p>担当科目</p>	<p>英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、環境英語文献講読Ⅰ、Ⅱ、日本語リテラシⅠ</p>
<p>教育に関する特別の業績</p>	

教員業績データベース(公表)

データ最終更新日 2015年6月26日

氏名	磯貝明		
専門	会計学・財務会計		
学位	博士(経済学)		
学歴	1989年3月	名古屋大学経済学部経営学科卒業	
	1990年4月	名古屋大学経済学部研究生(1992年3月まで)	
	1992年3月	名古屋大学大学院経済学研究科経営学専攻博士前期課程入学	
	1995年3月	名古屋大学大学院経済学研究科経営学専攻博士前期課程修了	
	1995年4月	名古屋大学大学院経済学研究科経営学専攻博士後期課程入学	
	1998年3月	名古屋大学大学院経済学研究科経営学専攻博士後課程単位修得満期退学	
研究業績	博士學位論文		
	「わが国における税効果会計の制度論的研究」2000年3月(名古屋大学)		
	5年以内の学術論文		
	『現代日本の企業・経済・社会』学文社(2013年4月)		
	「環境債務の実態と資産除去債務の認識」人間環境大学人間環境学部紀要『人間と環境』第2号(2011年11月)		
	「企業経営とステイクホルダー」おかしん総研「調査月報」3月号(2014年2月)		
	「環境経営の視座と課題」おかしん総研「調査月報」4月号(2014年3月)		
	「企業の社会的責任とあるべき姿」おかしん総研「調査月報」5月号(2014年4月)		
	「法人税の正体」おかしん総研「調査月報」6月号(2014年5月)		
	著書(学術)	単著	
		共著	『人間環境学シリーズ第1巻 人間環境の創造－持続可能な文明のために－』勁草書房(1999年7月)
			『現代企業とマネジメント』ナカニシヤ出版(2008年6月)
	著書(その他)	単著	
		共著	
	単著	「企業利益と課税所得との差異調整に関する一考察」名古屋大学大学院経済学研究科提出修士論文(1995年1月)	
		「わが国における税効果会計の必要性について」『浜松短期大学研究論集』第53号(1997年12月)	
		「繰延税金資産の認識についての考察」『経済科学』第45号第3号(名古屋大学経済学会編)(1997年12月)	
		「税効果の会計処理方法についての考察」『経済科学』第46号第1号(名古屋大学経済学会編)(1998年6月)	
		「わが国における税効果会計の制度論的研究」名古屋大学大学院経済学研究科提出博士論文(2000年3月)	
		「環境情報開示に関するシステムの構築」人間環境大学人間環境学部紀要『人間環境論集』第2号(2002年11月)	
「税効果会計における割引現在価値測定」『人間と環境－人間環境学研究所研究報告』5(2002年12月)			
「銀行業における税効果会計の影響－繰延税金資産の評価－」人間環境大学人間環境学部紀要『人間環境論集』第3号(2004年3月)			
「法人税の会計学的性格－税効果会計の前提としての法人税の費用性について－」人間環境大学人間環境学部紀要『人間環境論集』第5号(2006年3月)			
「環境情報開示の現状と課題－第三者レビューと法制度化について」人間環境大学人間環境学部紀要『人間環境論集』第6号(2007年3月)			
学術論文			

子術論文	「環境債務の実態と資産除去債務の認識」人間環境大学人間環境学部紀要『人間と環境』第2号(2011年11月)		
	「企業経営とステイクホルダー」おかしん総研「調査月報」3月号(2014年2月)		
	「環境経営の視座と課題」おかしん総研「調査月報」4月号(2014年3月)		
	「企業の社会的責任とあるべき姿」おかしん総研「調査月報」5月号(2014年4月)		
	「法人税の正体」おかしん総研「調査月報」6月号(2014年5月)		
	共著	ファーストオーサー	「税効果会計の適用に関する一考察」『企業会計』第51巻第6号(中央経済社)(1999年6月)
		特別の役割	
		その他	
	確認された被引用論文(引用論文、件数など)		「環境債務の実態と資産除去債務の認識」人間環境大学人間環境学部紀要『人間と環境』第2号(2011年11月)1件【吉田武史「原発事故後におけるCSRとその情報開示の課題」横浜商科大学公開講座委員会編『日本の「いま」をみつめる：制度・組織の視点から』南窓社(2014年3月)】
	その他		学会発表「税効果会計の適用方法」第18回現代会計政策研究会(1998年4月) 学会発表「税効果会計における割引計算について」第88回日本会計研究学会中部部会(1998年7月) 学会発表「税効果会計基準の設定とその影響について」第4回名古屋大学会計学研究会(1999年7月) 学会発表「銀行業における税効果会計の影響－繰延税金資産の回収可能性」第11回名古屋大学会計学研究会(2003年1月)
翻訳			
教科書等			
外部研究資金獲得状況(学術振興会特別研究員など)		日本学術振興会特別研究員(PD)(1999年4月～2000年3月) (科学研究費補助金<若手研究B.課題番号16730244> 銀行業における繰延税金資産の特異性と回収可能性に関する研究(2004年度・2005年度)	
学術に関する受賞歴			
所属学会		日本会計研究学会 日本経営分析学会	
社会的活動の状況		大学入試センター教科科目第一委員会委員(簿記・会計)(2004年4月～2006年3月) 青山学院大学大学院国際マネジメント研究科博士論文審査委員(2005年4月～2006年3月) 大学入試センター教科科目特別委員会委員(簿記・会計)(2007年4月～2008年3月) 青山学院大学大学院国際マネジメント研究科博士論文審査委員(2008年4月～2009年4月)	
大学設置・学校法人審議会 科目担当審査経歴 (科目、年月)		財務会計論講義、財務会計論特講Ⅰ(経営分析論)、特講Ⅱ(簿記論)、演習、プロゼミナール、基礎ゼミナール、卒業論文、(1999年8月) 財務会計特論 M(合) (2002年9月) 財務会計演習 M(合) (2004年8月)	

担当科目	基礎簿記
	商業簿記 I・II
	工業簿記 I・II
	経営分析演習 I・II
	財務会計
	経営学の基礎
	演習(卒業研究) I・II・III・IV
	環境ビジネス
	大学院財務会計特論
	大学院財務会計演習
教育に関する特別の業績	

教員業績データベース(公表)

データ最終更新日 2015年6月25日

氏名	岡 良和			
専門	英語学・英語教育学			
学位	同志社大学文学修士			
学歴	1983年3月	同志社大学文学部英文学科卒業		
	1985年9月	同志社大学大学院文学研究科博士前期課程修了		
	博士学位論文			
	5年以内の学術論文	「比喩的に拡張された多義的動詞の理解度に影響を与える要因」(単著)、『比較文化研究』第99号(日本比較文化学会編)(157 - 166頁)平成23(2011)年3月30日		
		「直示動詞comeとgoの比喩的用法について」(単著)、『人間と環境』電子版 第6号(人間環境大学研究企画委員会編)(1 - 12頁)平成25(2013)年7月31日		
		「句動詞take inの比喩的用法について」(単著)、『人間と環境』第4号(人間環境大学研究企画委員会編)(1 - 10頁)平成25(2013)年11月30日		
		「直示動詞comeとgoの指導法: 認知言語学の視点から」(単著)、『人間と環境』電子版 第7号(人間環境大学研究企画委員会編)(1 - 12頁)平成26(2014)年3月31日		
		「語彙ネットワーク理論における動詞takeの扱いに対する批判的考察」(単著)、『人間と環境』電子版 第8号(人間環境大学研究企画委員会編)(1 - 12頁)平成26(2014)年7月31日		
		「動詞takeを非中心的直示動詞とみなすことに対する考察」(単著)、『人間と環境』第5号(人間環境大学研究企画委員会編)(1 - 12頁)平成26(2014)年11月30日		
	著書 (学術)	単著	「英語動詞takeの「非移動性」について: 派生語takerとtakingに基づく考察」(単著)、『人間と環境』電子版 第9号(人間環境大学研究企画委員会編)(22 - 30頁)平成27(2015)年3月31日	
			共著	『ことばの樹海—石黒昭博先生還暦記念論文集—』中井悟・龍城正明・山内信幸編著、英宝社、558頁(473 - 484頁)平成6年(1994)10月30日
				『英米文化常識百科事典』、南雲堂、445頁、(189 - 219頁)平成8年(1996)12月25日
				『英語学の基礎』(共著)、晃洋書房、190頁、(172 - 190頁)平成9年(1997)5月10日
				『人間環境学シリーズ第2巻 心とコミュニケーション—精神環境の探求—』竹市明弘、渡辺雄三、早川勇編著、勁草書房、328頁(141 - 150頁)(211 - 218頁)平成11年(1999)5月20日
	『英語研究の接点—理論と記述—』石黒昭博、山内信幸編著、英宝社、389頁(377 - 386頁)平成16年(2004)6月25日			
	著書 (その他)	単著		
		共著		
		The Possibility of Communication、『比較文化研究』第6号(日本比較文化学会編)(71 - 90頁)昭和62年(1987)3月30日		
		「指示と認識—隠喩表現からの一考察—」、『主流』第48号(同志社大学英文学会編)(105 - 119頁)昭和62年(1987)3月30日		
		「Max Blackの隠喩論」、『比較文化研究』第9号(日本比較文化学会編)(12 - 25頁)昭和62年(1987)3月30日		
		「運動・変革としての隠喩」、『甲南英語通信』第1号(甲南中・高等学校英語科編)(60 - 68頁)昭和63年(1988)3月30日		
		「場面と英語教授法—GDMの研究—」、『主流』第50号(同志社大学英文学会編)(183 - 197頁)平成元年(1989)3月30日		

研究 業績	学術論文	単著	Knowledge of Language and Theory of Language—A Criticism of Generative Grammar、『人文・社会科学論集』第5号(聖泉人文・社会学会編)(17 - 31頁)平成元年(1989) 3月30日
			「GDMの第2言語習得観」、『人文・社会科学論集』第8号(聖泉人文・社会学会編)(59 - 76頁)平成3年(1991) 3月30日
			「言語習得とインプット仮説」、『人文・社会科学論集』第9・10合併号(聖泉人文・社会学会編)(108 - 124頁)平成4年(1992) 3月30日
			「インプット仮説と規則」、『聖泉論叢』創刊号(聖泉短期大学学会編)(43 - 57頁)平成5年(1993) 3月30日
			A Report on the STEP English Class: How to Use a CALL Package Effectively、『聖泉論叢』第2号(聖泉短期大学学会編)(93 - 105頁)平成6年(1994) 3月30日
			The Model and Metaphors in the Natural Approach、『聖泉論叢』第3号(聖泉短期大学学会編)(61 - 76頁)平成7年(1995) 3月30日
			Metaphors in Second Language Reading Theories、『聖泉論叢』第4号(聖泉短期大学学会編)(161 - 174頁)平成8年(1996) 3月30日
			The Journey, Building, and Container Metaphors in the Schema Theory、『聖泉論叢』第5号(聖泉短期大学学会編)(199 - 211頁)平成9年(1997) 3月30日
			Analogies and Metaphors in D. E. Rumelhart's Schema Theory、『聖泉論叢』第6号(聖泉短期大学学会編)(155 - 166頁)平成10年(1998) 3月30日
			「ライティングとスキーマ理論」、『比較文化研究』第53号(日本比較文化学会編)(131 - 139頁)平成13年(2001) 3月30日
			「スキーマ理論を構成するメタファーについて」、『こころとことば』第2号(人間環境大学精神環境専攻編)(25 - 38頁)平成15年(2003) 3月30日
			「『日本での生活における心の支え』の解釈をめぐる」、『日本語学習者と環境との相互作用に関する研究』平成13年度～平成15年度 科学研究補助金 基盤研究(C)(2)課題番号 13680365 研究成果報告書(33 - 38頁)平成16年(2004) 3月30日
			The UNDERSTANDING IS SEEING Metaphor—A Study of I.A.Richards、『こころとことば』第3号(人間環境大学精神環境専攻編)(21 - 33頁)平成16年(2004) 3月30日
			Extensive Reading and Free Voluntary Reading、『こころとことば』第4号(人間環境大学精神環境専攻編)(35 - 51頁)平成17年(2005) 3月30日
			「初級英語クラスへの多読導入の試み」、『こころとことば』第5号(人間環境大学精神環境専攻編)(25 - 35頁)平成18年(2006) 3月30日
			「読解モデルにおける容器のメタファー」、『比較文化研究』第72号(日本比較文化学会編)(79 - 87頁)平成18年(2006) 3月30日
			「英語教育のための効果的なメタファーの利用」、『英語教育研究』第30号(関西英語教育学会編)(121-130頁)平成19年(2007) 3月30日
			「比喩を活用した英語教材化の試み」、『こころとことば』第6号(人間環境大学精神環境専攻編)(21-35頁)平成19年(2007) 3月30日
			「英語のこトワザを教えることについて」、『こころとことば』第7号(人間環境大学精神環境専攻編)(27-36頁)平成20年(2008) 3月30日
			「メタファーとコミュニケーション—発話行為論から」、『こころとことば』第8号(人間環境大学精神環境専攻編)(27-36頁)平成21年(2009) 3月30日
			「高校英語教科書における直喩—コーパス言語学からのアプローチ」、『藝』第6号(人間環境大学歴史・文化環境専攻編)(36-41頁)平成22(2010)年3月30日
			「英語教科書における動詞の比喩的拡張」、『英語比喩表現の量的・質的調査に基づく豊かな英語力育成のための教材システムの開発』報告書(15-29頁)平成22年(2010)3月31日
			「比喩的に拡張された多義的動詞の理解度に影響を与える要因」、『比較文化研究』第99号(日本比較文化学会編)(157 - 166頁)平成23(2011)年3月30日
			「直示動詞comeとgoの比喩的用法について」、『人間と環境』電子版 第6号(人間環境大学研究企画委員会編)(1 - 12頁)平成25(2013)年7月31日
			「句動詞take inの比喩的用法について」、『人間と環境』第4号(人間環境大学研究企画委員会編)(1 - 10頁)平成25(2013)年11月30日

		「直示動詞comeとgoの指導法: 認知言語学の視点から」、『人間と環境』電子版 第7号(人間環境大学研究企画委員会編)(1-12頁)平成26(2014)年3月31日	
		「語彙ネットワーク理論における動詞takeの扱いに対する批判的考察」、『人間と環境』電子版 第8号(人間環境大学研究企画委員会編)(1-12頁)平成26(2014)年7月31日	
		「動詞takeを非中心的直示動詞とみなすことに対する考察」、『人間と環境』第5号(人間環境大学研究企画委員会編)(1-12頁)平成26(2014)年11月30日	
		「英語動詞takeの「非移動性」について: 派生語takerとtakingに基づく考察」(単著)、『人間と環境』電子版 第9号(人間環境大学研究企画委員会編)(22-30頁)平成27(2015)年3月31日	
	共著	ファーストオーサー	
		特別の役割	
		その他	
	確認された被引用論文(引用論文、件数など)		
	その他		
	翻訳		
教科書等		Essential College English Grammar and Composition、郁文堂、72頁、石黒昭博、齊藤紀代子、岡良和、藤岡克則(共著者)平成9年(1997)7月25日	
外部研究資金 獲得状況 (学術振興会特別研究員など)		基盤研究(C)「比喩表現の量的・質的調査に基づく豊かな英語力育成のための教材システムの開発」(20520536)研究期間平成20年度～平成22年度(2008年度～2010年度)配分総額 4,030,000円	
学術に関する受賞歴			
所属学会		日本比較文化学会 表現学会 日本英語学会 関西英語教育学会 全国英語教育学会 大学英語教育学会	
社会的活動の状況			
大学設置・学校法人審議会 科目担当審査経歴 (科目、年月)		英語Ⅲ 平成6(1994)年11月 コミュニケーション論講義、コミュニケーション論特殊講義Ⅰ(表現活動におけるメタファーの問題)、コミュニケーション論特殊講義Ⅱ(言語習得論)、コミュニケーション論プロゼミナール、コミュニケーション論演習Ⅰ、コミュニケーション論演習Ⅱ、言語学 平成11(1999)年8月	
担当科目		基礎ゼミナールⅠ、基礎ゼミナールⅡ、英語Ⅰ、英語Ⅱ、 心理学英語文献講読Ⅰ、心理学英語文献講読Ⅱ、事前・事後指導	
教育に関する特別の業績			

教員業績データベース(公表)

データ最終更新日 2015年6月22日

氏名	川口雅昭		
専門	日本教育史		
学位	広島大学教育学修士		
学歴	1978年3月	広島大学大学院教育学研究科博士課程前期修了	
研究業績	博士学位論文		
	5年以内の学術論文		
	著書 (学術)	単著	
		共著	Ⅱ「攘夷」の諸相、「下田渡海考」(田中彰編『幕末維新の社会と思想』吉川弘文館、平成11年)。第一章近代前の教育 第一節「日本における近代前の教育」(佐藤尚子編『日中比較教育史』春風社、平成14年)。
	著書 (その他)	単著	『吉田松陰名語録—人間を磨く百三十の名言—』(致知出版社、平成17年。)'『吉田松陰一日一言』(致知出版社、平成18年。)'『大教育者のことば—偉人たちの残した金言名句99』(致知出版社、平成19年。)'『吉田松陰』(致知出版社、平成23年。)'『吉田松陰四字熟語遺訓』(致知出版社、平成25年。)'『孟子—一日一言』(致知出版社、平成26年。)'『吉田松陰に学ぶ 男の磨き方』(致知出版社、平成26年。)'『吉田松陰 武教全書講録』(ケイアンドケイプレス、平成26年。)'『吉田松陰 真の教え』(太陽出版、平成27年。)'『吉田松陰の女子訓』(致知出版社、平成27年。)
		共著	
	学術論文	単著	村塾教育の現在的意義—松陰教育の特質—『教育学研究紀要』第1部、第34巻(中国四国教育学会編)
			吉田松陰の教育観の形成について—熊本における横井小楠との邂逅を中心にして—『教育学研究紀要』第1部、第35巻(中国四国教育学会編)
			松陰における社、党、同志の分析—村塾の性格をめぐる—『教育学研究紀要』第1部、第36巻(中国四国教育学会編)
			吉田松陰における教育実践の性格—教育観の基底としての情的人間把握—『教育学研究紀要』第1部、第37巻、中国四国教育学会編
			吉田松陰における教育実践の性格—「吾が党」の自覚との関連において—『日本の教育史学』第35集(教育史学会編)
			吉田松陰における理想的武士観の性格—その諫死論を中心として—『教育学研究紀要』第1部、第38巻(中国四国教育学会編)
			吉田松陰における理想的武士観について—その「忠」概念を中心として—『教育学研究紀要』第1部、第39巻(中国四国教育学会編)
			吉田松陰における理想的武士観について—その「孝」概念を中心として—『教育学研究紀要』第1部、第40巻(中国四国教育学会編)
			吉田松陰の「孝」概念について『山口県史研究』第3号(山口県編)
吉田松陰の「忠孝」概念について『陽明学』第7号、二松学舎大学陽明学研究所編			
		吉田松陰における理想的武士観について—その生死観を中心として—『吉田松陰における理想的武士観について—その生死観を中心として—松下村塾考』『山口県地方史研究』第80号(山口県地方史学会編)	

		吉田松陰の死に関する定説について『人間環境学研究所研究報告書』第3号(岡崎学園国際短期大学編)	
		吉田松陰の理想的生死観とその死について『人間と環境—人間環境学研究所研究報告書』第4号(人間環境大学 人間環境学研究所編)	
		吉田松陰の国際感覚について『藝』第1号(人間環境大学歴史文化環境専攻編)	
		吉田松陰における理想的武士観について—その生活論を中心として—『藝』第5号(人間環境大学 歴史文化環境専攻編)	
		吉田松陰の天皇観『藝林』第五十八巻、第一号	
	共著	ファーストオーサー	
		特別の役割	
		その他	
	確認された被引用論文(引用論文、件数など)		
	その他		
翻訳			
教科書等			
外部研究資金獲得状況(学術振興会特別研究員など)			
学術に関する受賞歴			
所属学会		日本教育学会	
		史学会	
		中国四国教育学会	
社会的活動の状況		平成23年2月熊本県神社庁公開講座—「肥後と吉田松陰」	
		平成23年2月愛知県立岩津高校講会講座—「学問をするということ」	
		平成23年2月海上自衛隊護衛艦「まつゆき」(母港:舞鶴)研修講座—「武士の生き方」	
		平成23年5月静岡県立富士宮西高校公開講座「学ぶということ」	
		平成23年6月静岡県立富士宮西高校公開講座「学ぶということ」	
		平成23年7月熊本県神社保育講習会公開講座—「吉田松陰に学ぶ、保育者が今為すべきこと」	
		平成23年7月静岡県立富岳館高校講会講座—「学ぶということ」	
		平成23年10月福岡県立城南高校公開講座—「学問をするということ」	
		平成23年10月福岡県立嘉穂東高校公開講座—「学問をするということ」	
		平成23年10月福岡県私立希望ヶ丘教員研修会—「生徒指導のあり方」	
		平成23年11月愛知県豊橋中央高校公開講座—「学ぶということ」	
		平成23年11月愛知県豊橋中央高校公開講座—「学ぶということ」	
		平成24年2月長崎県平戸市青少年健全育成研修会公開講座—「愛しむということ」	
		平成24年2月岡崎市立河合中学校教員研修会公開講座—「愛しむということ」	
		平成24年2月愛知県立杏和高校公開講座—「学ぶということ」	
		平成24年2月陸上自衛隊木更津駐屯地幹部公開講座—「武士の生き方」	
平成24年5月福岡県立春日高校公開講座—「人がそだつということ、人をそだてるということ」			

<p>社会的活動の状況</p>	<p>平成24年6月福岡県立門司大翔館高校公開講座―「学ぶということ」</p> <p>平成24年9月愛知県立杏和高校公開講座―「学ぶということ」</p> <p>平成24年10月福岡県立城南高校公開講座―「学問をするということ」</p> <p>平成24年11月福岡県立香住丘高校公開講座―「学ぶとは」</p> <p>平成24年12月岐阜県立瑞浪高校公開講座―「学ぶということ」</p> <p>平成24年12月 第66回 ねっと99夢フォーラム公開講座―「點醒の達人、愛しむ人づくり 吉田松陰と松下村塾に学ぶ」千葉県大網町</p> <p>平成25年7月岐阜県立各務原西高校三年生対象公開講座―「何のために学ぶのか」</p> <p>平成25年9月早稲田大学春秋会公開講座―「今、吉田松陰に学ぶ」</p> <p>平成25年10月福岡県立八幡工業高校創立記念式典公開講座―「学ぶということ」</p> <p>平成25年12月山口県立厚狭高等学校公開講座―「学ぶということ」</p> <p>平成26年7月岡山市医師の会和楽会公開講座―「武士の生き方」</p> <p>平成27年1月岐阜市生涯学習センター公開講座―「愛しむ一松陰教育の特質」</p> <p>平成27年2月岡崎商工会議所公開講座―「吉田松陰の女子教育論」</p> <p>平成27年3月関西師友協会公開講座「人を育てる人がそだつということ」</p> <p>平成27年5月 愛知県立刈谷高校公開講座―「吉田松陰が我が国に与えた影響」</p> <p>平成27年5月岡崎学園高校PTA公開講座―「松陰教育の現代的意義」</p> <p>平成27年5月愛知県立豊田西高校公開講座―「吉田松陰に学ぶ」</p>
<p>大学設置・学校法人審議会 科目担当審査経歴 (科目、年月)</p>	<p>教員資格審査において教員資格認定 人間環境大学人間環境学部人間環境学科 教授、日本近世教育史講義、日本近世教育史特殊講義Ⅰ(近世・近代社会と教育)、日本近世教育史特殊講義Ⅱ(吉田松陰の教育思想)、日本近世教育史演習Ⅰ、日本近世教育史演習Ⅱ、日本近世教育史プロゼミナール、基礎ゼミナール(2)、卒業論文(平成11年8月)教員の免許状授与の所用資格を得させるための大学の課程の認定において、「教職に関する科目」の担当教員(専任)として認定、教職概論、教育原論、日本近世教育史講義、日本近世教育史特殊講義Ⅱ(吉田松陰の教育思想)、教育制度論、日本近世教育史特殊講義Ⅰ(近世・近代社会と学校教育)、生徒指導・進路指導を担当、現在にいたる(平成12年3月)教員資格審査において教員資格認定 人間環境大学大学院人間環境学研究科(修士課程)教授、日本近世教育文化論演習、日本近世教育文化論特論、修士論文、M合、現在にいたる(平成14年8月)学内における教員資格審査において、大学院「日本近世教育文化論」の研究指導教員認定、現在にいたる(平成18年4月)</p>
<p>担当科目</p>	<p>(学部)日本史概説、教育制度論、生徒指導・進路指導、社会・歴史練習Ⅰ(大学院)日本近世教育文化論特論</p>
<p>教育に関する特別の業績</p>	

教員業績データベース(公表)

データ最終更新日 2015年7月7日

氏名	坂本真也		
専門	臨床心理学, 学校臨床心理学(スクールカウンセリング)		
学位	修士		
学歴	2004年3月	人間環境大学人間環境学部人間環境学科 卒業	
	2004年4月	人間環境大学大学院人間環境学研究科人間環境専攻 入学	
	2006年3月	人間環境大学大学院人間環境学研究科人間環境専攻 修了(修士(人間環境学))	
	2006年4月	愛知学院大学大学院心身科学研究科(博士後期課程)心理学専攻 入学	
	2009年3月	愛知学院大学大学院心身科学研究科(博士後期課程)心理学専攻 満期退学	
研究業績	博士学位論文		
	5年以内の学術論文		
	坂本真也(2010):外国人児童への遊戯療法—小学校でのスクールカウンセリングにおける中断事例を通して 人間環境大学付属臨床心理相談室紀要臨床心理研究5 3-9.		
	神谷かつ江・坂本真也(2011):小学校におけるスクールカウンセリングに関する一考察—東海学院大学短期大学部紀要 37 13-19.		
	坂本真也(2011):スクールカウンセリングにおける教員研修の実践に関する研究—PCAGIP法を参考にした事例検討について 人間環境大学人間環境学部紀要 ころとことば 10 85-96.		
	坂本真也(2011):スクールカウンセラーによる“こころの授業”の実践 人間環境大学付属臨床心理相談室紀要臨床心理研究6 79-84.		
	神谷かつ江・坂本真也(2012):学校臨床における保護者研修について 東海学院大学短期大学部紀要 38 9-14.		
	坂本真也(2013):学校臨床における小学校での保護者面接と校内連携に関する研究—早期に終結した2事例より 人間環境大学付属臨床心理相談室紀要臨床心理研究7 43-52.		
	神谷かつ江・坂本真也(2014):SCの援助と連携プロセスに関する研究 東海学院大学短期大学部紀要 40 5-11.		
	坂本真也(2014):里親家庭の男児への遊戯療法 遊戯療法学研究 13(1) 65-74.		
	坂本真也(2015):岡崎市における地域を支える心理的援助に関する研究 地域活性化研究 14		
	著書 (学術)	単著	
		共著	
	著書 (その他)	単著	
		共著	
	研究業績	単著	坂本真也(2008):卒業期の大学生が捉える親子関係に関する質的研究—修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチによる— 愛知学院大学心理臨床・教育相談室心理臨床研究 10 47-64.
			坂本真也(2010):外国人児童への遊戯療法—小学校でのスクールカウンセリングにおける中断事例を通して 人間環境大学付属臨床心理相談室紀要臨床心理研究5 3-9.
坂本真也(2011):スクールカウンセリングにおける教員研修の実践に関する研究—PCAGIP法を参考にした事例検討について 人間環境大学人間環境学部紀要 ころとことば 10 85-96.			
坂本真也(2011):スクールカウンセラーによる“こころの授業”の実践 人間環境大学付属臨床心理相談室紀要臨床心理研究6 79-84.			
坂本真也(2013):学校臨床における小学校での保護者面接と校内連携に関する研究—早期に終結した2事例より 人間環境大学付属臨床心理相談室紀要臨床心理研究7 43-52.			
坂本真也(2014):里親家庭の男児への遊戯療法 遊戯療法学研究 13(1) 65-74.			

学術論文			坂本真也(2015):岡崎市における地域を支える心理的援助に関する研究 地域活性化研究 14
	共著	ファースト オーサー	
		特別の役 割	
		その他	田畑治・坂本真也・篠田瑛子(2007):修士修了直後,ならびに臨床心理 士資格取得後の研修,スーパービジョンについての追跡的研究4—「修 士修了直後の追跡調査」と「臨床心理士の動向ならびに意識調査」との 比較検討 愛知学院大学心理臨床・教育相談室心理臨床研究 7・8 73- 82.
			神谷かつ江・坂本真也(2011):小学校におけるスクールカウンセリングに 関する一考察—東海学院大学短期大学部紀要 37 13-19.
	神谷かつ江・坂本真也(2012):学校臨床における保護者研修について 東海学院大学短期大学部紀要 38 9-14.		
		神谷かつ江・坂本真也(2014):SCの援助と連携プロセスに関する研究 東海学院大学短期大学部紀要 40 5-11.	
確認された被引用論文 (引用論文、件数など)			
その他			
翻訳			津田彰・山崎久美子監訳(2010):心理療法の諸システム—多理論統合 的分析 金子書房 「第5章パーソンセンタード療法(pp.152-189)」翻訳協 力
教科書等			
外部研究資金 獲得状況 (学術振興会特別研究員など)			平成26年度岡崎における産学協同研究助成「岡崎市における地域を支 える心理的援助に関する研究」
学術に関する受賞歴			
所属学会			日本心理臨床学会 日本遊戯療法学会 日本学校メンタルヘルス学会 日本人間関係学会
社会的活動の状況			愛知県学校臨床心理士会運営委員 岡崎市地域情報化計画策定委員会委員 岡崎市教育委員会そよかぜ相談専門家
大学設置・学校法人審議会 科目担当審査経歴 (科目、年月)			
担当科目			心理学研究法Ⅱ, パーソナリティの心理学, 心理学文献講読Ⅰ・Ⅱ 心理コース演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ, 心理調査作成法Ⅰ, 心理調査集計法Ⅰ, 学校心理学 臨床心理基礎実習(大学院)
教育に関する特別の業績			

教員業績データベース(公表)

データ最終更新日 2015年6月29日

氏名	三後 美紀			
専門	臨床心理学 キャリア発達心理学			
学位	臨床心理学修士			
学歴	1999年3月	名古屋大学教育学部教育心理学科卒業		
	1999年4月	名古屋大学教育学部研究生入学		
	2000年3月	名古屋大学教育学部研究生修了		
	2000年4月	名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士課程前期入学		
	2002年3月	名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士課程前期修了		
	2002年4月	名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士課程後期入学		
	2005年3月	名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士課程後期単位取得満期退学		
研究業績	博士学位論文			
	5年以内の学術論文			
	著書 (学術)	単著		
		共著	高校生の進路選択過程の心理学的メカニズムー自己決定経験とキャリア・モデルの役割ー キャリア形成・就職メカニズムの国際比較 寺田盛紀 編著(第2章)	
	著書 (その他)	単著		
		共著	何でも話せる「よつば相談室」 新しい中等教育へのメッセージ 名古屋大学教育学部附属中・高等学校 編著(第1章)	
	学術論文	単著		
		ファースト オーサー	職務ストレスとワーク・モチベーションに関する研究	
			異動時における企業内カウンセラーの役割に関する一考察 一人では登校できなくなった小2男児との遊戯療法過程	
		共著	特別の役割	学校における学生ボランティア活動の意義に関する一考察ー平成17年度岡崎市教育相談サポーター活動を振り返ってー 児童福祉施設入所児のコーピングと適応
			その他	サマー・スクール参加意識の変化についてー事前・中間・事後アンケートの結果からー
				親面接で生じやすい問題点と留意点ー心理臨床を学ぶ大学院生の視点からー 児童福祉施設における子どもへの対応に関する若手職員へのインタビューの分析 児童福祉施設の職員による子どもの問題行動の困難性の認知と対応行動の関係
		確認された被引用論文		

	(引用論文、件数など)	
	その他	
	翻訳	
	教科書等	
外部研究資金 獲得状況 (学術振興会特別研究員など)		
学術に関する受賞歴		
所属学会	日本心理臨床学会	
	日本精神分析学会	
	日本教育心理学会	
	日本発達心理学会	
	日本学生相談学会	
	日本遊戯療法学会	
	日本子ども虐待防止学会	
	産業・組織心理学会	
	経営行動科学学会	
社会的活動の状況	愛知県臨床心理士会理事	
	岡崎市「こころの健康づくりネットワーク会議」構成員(～2013年)	
大学設置・学校法人審議会 科目担当審査経歴 (科目、年月)		
担当科目	心理学概論Ⅱ	
	心理学研究法Ⅰ	
	人間関係の心理学Ⅰ・Ⅱ	
	産業・組織心理学	
	ストレス・マネジメント	
	心理コース演習(卒業研究)Ⅰ・Ⅱ	
心理コース演習(卒業研究)Ⅲ・Ⅳ		
教育に関する特別の業績		

教員業績データベース(公表)

データ最終更新日 2015年7月4日

氏名	島崎義治			
専門	建築設計、建築論			
学位	建築学修士			
学歴	1979年3月	京都大学工学部建築学科卒業		
	1982年3月	京都大学大学院工学研究科修了(建築学)		
研究業績	博士學位論文			
	5年以内の学術論文		2015: 桜台コートビレッジにおける設計プロセスの検証と考察	
			2011: 地域活性化活動となるコミュニティシンクタンクの実践的研究	
	著書 (学術)	単著		
		共著	2011:『現代日本の建築vol3』 2009:『現代日本の建築vol4』 2003:『人間環境の創造』	
	著書 (その他)	単著		
		共著		
	学術論文	単著		2015:「桜台コートビレッジにおける設計プロセスの検証と考察」
				2011:「地域活性化活動となるコミュニティシンクタンクの実践的研究」
				2008:「岡崎市六供町街並み調査/道の景に誘われて」
				2008:「コミュニティシンクタンクとしての図書館」
				2006:「町を描くということ」
				2005:「インターフェイスなる景観」 2004:「キャンパスの保存と再生」
	共著	ファーストオーサー		
		特別の役割		
		その他		
確認された被引用論文 (引用論文、件数など)				
その他				
翻訳				
教科書等				
「環境デザインにおける15のストーリー」/企画編集、著作				
2015: Dancing Landscape/ニイザタウンプロジェクト				
2014: 梯形/柴又の家				
2014: OOTA/O/太田駅北口文化交流拠点施設(プロポーザル応募作品)				
2013: White Box/千駄木の事務所				

建築作品	2012: WoodenBox/明治学院大学13号館 (2011世界建築家会議参加作品)
	2012: Sora no Kaidan/康生の家
	2012: スキヤハウス/旭硝子千葉工場ゲストハウス
	2011: WALL INSIDE OUT/前橋市美術館(プロポーザル応募作品)
	2007: House In Wire Gauze/新宿の家 (2009世界建築家会議参加作品)
	2001: 明治学院大学パレットゾーン(内井昭蔵事務所での担当責任作品)
外部研究資金 獲得状況 (学術振興会特別研究員など)	2010: 地域活性化研究助成/岡崎大学懇話会
学術に関する受賞歴	2003: 日本建築学会作品選集/明治学院大学パレットゾーン
	2011: 世界建築家会議DesignWorks受賞/明治学院大学13号館
	2012: グッドデザイン賞/明治学院大学13号館
	2013: グッドデザイン賞/明治学院大学図書館附属日本近代音楽館
	2013日本建築家協会優秀作品100選/明治学院大学13号館
所属学会	日本建築学会
	日本建築家協会
社会的活動の状況	2008～2012、2015～: 岡崎大学懇話会幹事
	2013: 「環境世界としての建築展」岡崎市葵丘にて展示会
	2015: 「環境世界としての建築展」文京区ギャラリーSIにて展示会
	2008～: コミュニティンクタンクCTの運営
大学設置・学校法人審議会 科目担当審査経歴 (科目、年月)	
担当科目	
教育に関する特別の業績	

教員業績データベース(公表)

データ最終更新日 2015年6月27日

氏名	菅原太(布寿史)			
専門	美術、美術史			
学位	芸術学修士、文化交渉学博士			
学歴	1988年4月	京都市立芸術大学大学院絵画専攻日本画科入学		
	1990年3月	京都市立芸術大学大学院絵画専攻日本画科修了		
研究業績	博士學位論文		「動画として見る十二世紀東アジア絵画」	
	5年以内の学術論文		「信貴山縁起絵巻 時間分析の試みII -飛倉の巻クライマックスの映画的表現手法-」 「徳川・五島本源氏物語絵巻 ダイナミクスに至る構図I -対置的スタティクスと有機的ダイナミクス-」 「徳川・五島本源氏物語絵巻 ダイナミクスに至る構図II -色彩とテキストの動的効果-」 「李迪筆雪中帰牧図 動く映像の絵画」 「張擇端筆清明上河図 時間と奥行の構造」 「光明寺本 麻曼茶羅縁起絵巻 反物語の技法」 「絵画空間の二次元性と余情表現 -フェルメール絵画と十二世紀東洋絵画の構図-」	
	著書 (学術)	単著		
		共著	『人間環境学シリーズ第3巻 日本文化の21世紀 -歴史・文化環境を生きる-』 『歴史・文化環境専攻分野講義録』	
	著書 (その他)	単著		
		共著		
	学術論文	単著		
		共著	ファーストオーサー	
			特別の役割	
			その他	
		確認された被引用論文 (引用論文、件数など)		
	その他			
	翻訳			
	教科書等			

外部研究資金 獲得状況 (学術振興会特別研究員など)	
<b>学術に関する受賞歴</b>	
所属学会	
社会的活動の状況	NPO法人 観〇光 ART EXPO 正会員
大学設置・学校法人審議会 科目担当審査経歴 (科目、年月)	
担当科目	基礎ゼミナール 日本語リテラシ 上級日本語 日本古代・中世史
教育に関する特別の業績	

教員業績データベース(公表)

データ最終更新日 2015年6月29日

氏名	高橋蔵人		
専門	臨床心理学、心理療法、カウンセリング		
学位	教育学修士(愛知教育大学)		
学歴	1986年3月	愛知教育大学教育学部卒業	
	1988年3月	愛知教育大学大学院教育学研究科修了	
研究業績	博士學位論文		
	5年以内の学術論文		失敗をのりこえること—重度の摂食障害に陥った女性が獲得した自己肯定感から 心理臨床学研究, 2011, 28(6), 751-762.
	著書 (学術)	単著	
		共著	来談者が心理療法家に求めるもの、心理療法家が応えようとするもの 渡辺雄三(編) 仕事としての心理療法 人文書院. 1999, 151-169. 精神医療とそのスタッフから学ぶべき課題 その2 精神科クリニックの職場から 渡辺雄三・総田純次(編) 臨床心理学にとっての精神科臨床 人文書院. 2007, 155-163.
	著書 (その他)	単著	
		共著	境界例である虐待加害者への対応——病院(精神科)において—— 愛知県臨床心理士会虐待問題研究会(編) 臨床心理士用子どもの虐待防止のための事例研究報告集(通告をめぐって) 愛知県臨床心理士会虐待問題研究会 pp9-10. 2003年4月 臨床心理士の医療現場における子どもの虐待への対応——とくに虐待者への告知と通告をめぐって—— 愛知県臨床心理士会虐待問題研究会(編) 臨床心理士用子どもの虐待防止のための事例研究報告集(通告をめぐって) 愛知県臨床心理士会虐待問題研究会 pp11-14. 2003年4月
	学術論文	単著	
		共著	
		ファーストオーサー	電話相談における危機介入 子どもの虐待とネグレクト, 3(1), 141-145. 2001年7月 死亡事例を検証する③釈放後のカウンセリング 子どもの虐待とネグレクト, 8(2), 218-227. 2006年9月
		特別の役割	
		共著	子どもを持つ物質依存症者への援助——とくに配偶者のいない一人で育児をしているケースをめぐって—— アディクションと家族, 20(1), 75-81. 2003年5月 父親グループを考える アディクションと家族, 2003, 20(2), 225-230.
		その他	死亡事例を検証する①刑事弁護から治療への連携 子どもの虐待とネグレクト, 2005, 7(2), 182-189.

			死亡事例を検証する②刑事弁護から治療への検証 子どもの虐待とネグレクト, 2005, 7(3), 319-322.
	確認された被引用論文 (引用論文、件数など)		青年期における分離個体化に関する研究 心理臨床学研究, 1989, 7(2), 4-14. (岡本清孝・上地安昭 第二の個体化のか艇から見た親子関係および友人関係 教育心理学研究, 1999, 47, 248-258. 高田利武 日本文化における相互独立性・相互協調性の発達過程—比較文化的・横断的資料による実証的検討—. 教育心理学研究, 1999, 47, 480-489. 林歩 自我機能の視点からみた母親の分離不安尺度の構成 心理臨床学研究, 2005, 23(1), 54-63. 清水健司・川邊浩史・海塚敏郎 青年期における対人恐怖心性と第2の分離個体化の関連について 心理臨床学研究, 2005, 23(5), 579-590. 大家聡樹 青年期の親子関係イメージと境界例心性に関する研究 心理臨床学研究, 2006, 24(1), 22-33. 他)
	その他		原著論文「アスペルガー症候群をもつ女性患者との面接過程—やわらかな非自閉部分に触れていくこと」へのコメント 青年期精神療法, 2014, 11(1).
	翻訳		
	教科書等		投映法——投影法を学ぶにあたって、SCT(文章関係法)、TAT(主題統覚検査)、ロールシャッハ法 人間環境大学人間環境学部(編) 心理学基礎実習テキスト 人間環境大学人間環境学部, 2004, 54-69.
	外部研究資金 獲得状況 (学術振興会特別研究員など)		
	学術に関する受賞歴		
	所属学会		日本心理臨床学会、日本精神分析学会、日本子どもの虐待防止学会、日本嗜癪行動学会、日本アルコール関連問題学会
			1989～1990年度 日本臨床心理士資格認定協会地方研修会世話人
			1993～1997年 はこ心理教育研究所カウンセリング講座講師
			1993～2010年、2015年～ 社会福祉法人愛知いのちの電話協会スーパーバイザー
			1995～2005年 社団法人日本産業カウンセラー協会講師
			1995～2011年 日本心理カウンセリング(旧三重カウンセリング)講師
			1996年～ 子どもの虐待防止ネットワーク・あいち(CAPNA)研修講師
			1996年 愛知医療ソーシャルワーク研究会講師
			1997年 子どもの虐待防止ネットワークあいち(CAPNA)2周年記念シンポジウムシンポジスト
			1997年 愛知労働基準協会人事労務管理セミナー講師
			2000年～ 病院心理療法研究会幹事
			2000年 愛知労働基準協会THP推進協議会心理相談員グループの集い講師
			2000年 日本子どもの虐待防止研究会第6回学術研究集会 分科会・座長
			2001年 名古屋市猪子石荘学童保育所父母会学習会講師
			2002年 名古屋市立北志賀小学校校内研修会講師
			2002年 愛知県臨床心理士会選挙管理委員
			2002年 愛知県高等学校教員研修会教育相談部会講師
			2002年 日本嗜癪行動学会第13回大会・大会準備委員
			2002年 日本嗜癪行動学会第13回大会 ワークショップ・座長
			2004年 日本アルコール関連問題学会第26回大会運営委員
			2004～2005年 瀬戸市育児講座講師
			2006～2008年 愛知アルコール連携医療研究会事務局員

社会的活動の状況	2007年 愛知県臨床心理士会平成18年度総会・研修会・分科会・指定討論	
	2007年 子ども家族支援ネットワーク・あかつき電話相談員要請講座講師	
	2007年 愛知県臨床心理士会平成19年度総会・研修会 分科会・企画・司会	
	2008年～ 名古屋心理査定研究会講師	
	2008年～ 檀溪心理相談室心理臨床セミナー講師	
	2008年 愛知県臨床心理士会学校臨床心理士研修会講師	
	2009～2013年 愛知県臨床心理士会常任理事	
	2009年 愛知県臨床心理士会平成21年度総会・研修会 分科会・企画・司会	
	2009年 愛知県臨床心理士会学校臨床心理士研修会講師	
	2010年 豊田市健康増進課リスナー研修講師	
	2010年 名古屋市交通局主任・技能主任研修講師	
	2010年 愛知県臨床心理士会研修部会主催一日研修会コメンテーター	
	2010年 名古屋法務局人権擁護委員第一次研修講師	
	2011年 愛知県臨床心理士会 第19回医療心理臨床研修会・司会	
	2011年 みよし市自殺予防講演会講師	
	2011～2014年度 一般社団法人日本臨床心理士会 代議員	
	2011年 愛知県臨床心理士会平成23年度総会・研修会 分科会・企画・司会	
	2011年 愛知県臨床心理士会 第20回医療心理臨床研修会・事例提供	
	2011年 豊川高等学校職員研修会講師	
	2011年 名古屋大学アセスメント勉強会・コメンター	
	2012年 愛知県臨床心理士会平成24年度総会・研修会・シンポジスト	
	2012年 愛知県臨床心理士会 第22回医療心理臨床研修会・講師	
	2012年 日本心理臨床学会 第31回秋季大会 事例研究・司会	
	2013年～ 愛知教育大学心理臨床事例研究会 コメンター	
	2013年 名古屋ロールシャツハ研究会総会 事例研究・指定討論	
	2013年 愛知県臨床心理士会平成25年度総会・研修会・司会	
	2013年 東海開業臨床心理士協会 発足15周年記念シンポジウム・シンポジスト	
	2014年 第15回日本精神科診療所協会チーム医療・地域リハビリテーション研修会・実行委員	
	2014年 愛知いのちの電話協会経験別相談員研修会 講師	
	2014年 愛知県臨床心理士会平成26年度総会・研修会・司会	
	2014年 浜松市教育相談支援センター 研修会 講師	
	大学設置・学校法人審議会 科目担当審査経歴 (科目、年月)	
	担当科目	心理学研究法Ⅱ
		心のケアの心理学
カウンセリングの心理学		
心理療法		
精神病理学		
心理学特別演習		
臨床心理面接特論		
臨床心理実習		
教育に関する特別の業績		

教員業績データベース(公表)

データ最終更新日 2015年6月29日

氏名	高橋 昇		
専門	臨床心理学、心理査定学、芸術療法		
学位	博士(心理学)		
学歴	1975年4月	名古屋大学教育学部教育心理学科入学	
	1979年3月	名古屋大学教育学部教育心理学科卒業	
	2013年4月	名古屋大学大学院教育発達科学研究科心理発達科学専攻精神発達臨床科学講座入学	
	2014年6月	名古屋大学大学院教育発達科学研究科心理発達科学専攻精神発達臨床科学講座短縮修了	
研究業績	博士学位論文		
	5年以内の学術論文		
	著書 (学術)	単著	投映法の心理療法的バッテリーに関する研究 -ロールシャッハ法と「穴」のある風景構成法の統合的活用-2014
		共著	ロールシャッハ法と風景構成法の心理療法的バッテリー-子どもを虐待する女性の事例を通して-。2010. 人間環境大学紀要臨床心理研究4 心身医学と臨床心理学-対比から協働に向けて-。2010. 環境と健康4. 1 「心理療法導入期」論文へのコメント。2012. 人間環境大学紀要臨床心理研究6 私というスーパーヴァイザーから見たヴァイジーと事例-橋丸論文への思考-。2013. 人間環境大学紀要臨床心理研究7
	著書 (学術)	共著	心理臨床家。「共にありたいと願う心-デイ・ケアへの取り組みを通して」。誠信書房。1982. P.201~224 心理検査の基礎と臨床。星和書店。1987. P.184~186 臨床投映法入門。ナカニシヤ出版。P.106~127、P.193~201 心の臨床・その実践-かかわることの原点から-。ナカニシヤ出版。1999. P.99~115 臨床心理学③コミュニティ心理学とコンサルテーション・リエゾン第11章「病院臨床-5. デイケア」。培風館。2000. P.144~153 こころを癒す音楽。講談社。2005 小学校教員をめざして-教育実習の基礎基本-。ぎょうせい。2008. P.165~169 実践ロールシャッハ法-思考・言語カテゴリーの臨床的適用。ナカニシヤ出版。2010. P.67~93、P.143~154 カウンセリング実践ハンドブック。丸善。2010. P.438~439、P.444~445 “いのち”と向き合うこと・“こころ”を感じること-臨床心理の原点をとらえなおす。ナカニシヤ出版。2013. P.115~126
		単著	
		共著	
		単著	
		共著	
		単著	慢性患者の描画の変化と常同性-相互なぐり描き法と風景構成法を用いて- 日本心理臨床学会心理臨床学研究24. 5 2006 P525-536 ロールシャッハ法と風景構成法の心理療法的バッテリー-子どもを虐待する女性の事例を通して- 人間環境大学紀要臨床心理研究第4号 2010 心身医学と臨床心理学-対比から協働に向けて- 環境と健康4巻1号 2010 「心理療法導入期」論文へのコメント 人間環境大学紀要臨床心理研究第6号 2012 私というスーパー ヴァイザーから見たヴァイジーと事例-橋丸論文への思考- 人間環境大学紀要臨床心理研究第7号 2013
		共著	
		単著	
共著			

学術論文	共著	ファースト オーサー	精神科病院での重複精神療法における臨床心理士の役割. 心理臨床3. 3. 特集「心理臨床家のアイデンティティをめぐって(2)」 星和書店 P.151～156
			境界人格障害者のロールシャッハテスト—名大式「思考言語カテゴリー」による検討— 心理臨床学研究12.4. 1995 (P.368～377)
			名大式思考・言語カテゴリーの臨床的適用—ある境界性人格障害者の事例を通して— 心理臨床学研究19. 4 2001 P.365～374
		特別の役割	
		その他	ロールシャッハ反応における限定づけ・修飾の系列化 —名大式「思考・言語カテゴリー」による検討— 心理臨床学研究19. 3. 2001 P.311～317
確認された被引用論文 (引用論文、件数など)			
その他			
翻訳			
教科書等			
外部研究資金 獲得状況 (学術振興会特別研究員など)			
学術に関する受賞歴			
所属学会		日本心理臨床学会	
		日本芸術療法学会	
		日本ロールシャッハ学会	
		日本遊戯療法学会	
社会的活動の状況		愛知県臨床心理士会常任理事(1999.4～2014.3)	
		日本心理臨床学会代議員(2012.4～現在)	
		日本ロールシャッハ学会倫理委員長(2012.4～2014.3)	
		日本ロールシャッハ学会教育・研修委員長(2014.3～現在)	
大学設置・学校法人審議会 科目担当審査経歴 (科目、年月)			
担当科目		臨床心理学Ⅰ・Ⅱ・心理コース演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	
		臨床心理基礎実習・臨床心理実習・臨床心理査定演習	
		人間環境学共同演習・臨床心理査定特論	
教育に関する特別の業績			

教員業績データベース(公表)

データ最終更新日 2015年6月24日

氏名	坪井 裕子	
専門	臨床心理学・教育心理学	
学位	博士(心理学)	
学歴	2000年4月	名古屋大学大学院教育発達科学研究科 心理発達科学専攻 前期課程入学
	2002年3月	名古屋大学大学院教育発達科学研究科 心理発達科学専攻 前期課程修了
	2002年4月	名古屋大学大学院教育発達科学研究科 心理発達科学専攻 後期課程進学
	2005年3月	名古屋大学大学院教育発達科学研究科 心理発達科学専攻 後期課程満期退学
	博士学位論文	「ネグレクト児の臨床像とプレイセラピーに関する研究」
	5年以内の学術論文	松本真理子・金子一史編「子どもの臨床アセスメント」金剛出版, 第Ⅱ部第8章88-92p, 第Ⅲ部第4章115-120p, 2010
		河野荘子・岡本英生編「コンパクト犯罪心理学」, 北大路書房, 第5章1節, 91-102p, 2013
		松本真理子・森田美弥子・小川俊樹編「児童・青年期の臨床に生きるロールシャッハ法」金子書房, 第1部10章117-124p, 第2部1章131-139p, 2013
		窪田由紀編「子どもの心と学校臨床」第8号, 遠見書房, 42-51p, 2013
		松本真理子・Soili Keskinen編『フィンランドの子どもを支える学校環境と心の健康』第5章3, 明石書店, 130-141p, 2013
		坪井裕子(2012) 児童養護施設におけるグループアプローチの試み, 臨床心理研究-人間環境大学附属臨床心理相談室紀要, 6, 55-64
		坪井裕子(2013) 予期せぬ出来事にさらされた方への支援について, 心理臨床-名古屋大学発達心理精神科学教育研究センター心理発達相談室紀要-1, 28, 19-23
		坪井裕子・三後美紀(2011)「児童福祉施設の職員による子どもの問題行動の困難性の認知と対応行動の関係」子どもの虐待とネグレクト, 13(1) 105-114
		坪井裕子・三後美紀(2011) 児童福祉施設における子どもへの対応に関する若手職員へのインタビューの分析, 人間環境大学紀要「人間と環境」, 2, 45-58
		Tsuboi H., Matsumoto, et al., (2012) Japanese Children's Quality of Life(QOL) - A Comparison with Finnish Children -, <i>Japanese Journal of Child and Adolescent Psychiatry</i> , 53, Supplement, 14-25
		坪井裕子・松本真理子・他(2012) 被虐待児のロールシャッハ反応の特徴と問題行動との関連, 人間環境大学紀要「人間と環境」電子版 No.3, 35-44
		坪井裕子・松本真理子・他(2012) 子どものロールシャッハ法における父親・母親イメージ図版の検討, 人間環境大学紀要「人間と環境」, 3, 1-9
		坪井裕子・松本真理子・他(2013) フィンランドにおける児童福祉施設の実際, 人間環境大学紀要「人間と環境」電子版 No.6, 13-24
		松本真理子・畠垣智恵・鈴木伸子・坪井裕子・他(2011) 日本人児童のロールシャッハ法におけるPopular反応 性差の視点を中心に, 心理臨床学研究, 28(6) 805-810
		中西和紀・坪井裕子・他(2011) 発達障害児をもつ親のためのグループ活動に関する報告, 臨床心理研究-人間環境大学附属臨床心理相談室紀要, 5, 65-73
		袴田雅大・鈴木伸子・坪井裕子・他(2012)「子どものロールシャッハ反応における形態水準とPopular反応の再検討-成人基準と子ども基準-」心理臨床学研究, 30(3), 406-410
		野村あすか・松本真理子・坪井裕子・他(2012)「文章完成法から見た小・中学生の学校における自己像および対人関係の発達の变化」学校メンタルヘルス, 15(1), 67-78
	三後美紀・坪井裕子(2013) 児童福祉施設入所児のコーピングと適応, 臨床心理研究-人間環境大学附属臨床心理相談室紀要, 7, 37-41	
	野村あすか・松本真理子・坪井裕子・他(2013) フィンランドにおけるひきこもり傾向児に対する多面的アプローチ-質問紙法、投影法、および行動観察を通じた自己像と対人関係の検討-, 心理臨床-名古屋大学発達心理精神科学教育研究センター心理発達相談室紀要-1, 28, 25-36.	

研究業績			野村あすか・松本真理子・坪井裕子・他(2013)「文章完成法から見た日本とフィンランドの児童生徒の自己像と対人関係」心理臨床学研究, 31(5), 844-849
			松本真理子・窪田由紀・吉武久美・坪井裕子・他(2014)「児童生徒を対象とした心の減災能力育成に関する研究ー現状調査とプログラム開発を中心にー」東海心理学研究, 8, 2-11
			鈴木伸子・松本真理子・坪井裕子・他(2014)「小中学生の対人葛藤解決とQOL」学校メンタルヘルス, 17(2), 152 - 161.
			米澤由実子・坪井裕子(2015)児童福祉施設における性教育の取り組みーX県内の各施設取組みの報告集よりー, 臨床心理研究-人間環境大学附属臨床心理相談室紀要, 9, 35-44
	著書 (学術)	単著	坪井裕子(2008)ネグレクト児の臨床像とプレイセラピー, 風間書房, 228p
		共著	竹中哲夫, 長谷川真人編「新 子どもの問題ケースブック」中央法規出版株式会社 176-185p, 2004
			森田美弥子編 現代のエスプリ別冊『事例に学ぶ心理臨床実践セミナー』シリーズ第3巻「臨床心理査定研究セミナー」至文堂 81-92p, 2007
			渡辺雄三・総田純次編「臨床心理学にとつての精神科臨床」付章, 人文書院 299-306p, 2007
			松本真理子編 現代のエスプリ特集『子育てを支える心理教育とは何かー誕生から青年期まで』至文堂 67-78p, 2008
			松本真理子・森田美弥子監修/鈴木伸子・坪井裕子・白井博美・畠垣智恵・松本真理子・森田美弥子著(130頁)金剛出版, 2009
			松本真理子・金子一史編「子どもの臨床アセスメント」金剛出版, 第Ⅱ部第8章88-92p, 第Ⅲ部第4章115-120p, 2010
			河野荘子・岡本英生編「コンパクト犯罪心理学」, 北大路書房, 第5章1節, 91-102p, 2013
	松本真理子・森田美弥子・小川俊樹編「児童・青年期の臨床に生きるロールシャッハ法」金子書房, 第1部10章117-124p, 第2部1章131-139p, 2013		
	著書 (その他)	単著	
		共著	窪田由紀編「子どもの心と学校臨床」第8号, 遠見書房, 42-51p, 2013 松本真理子・Soili Keskinen編『フィンランドの子どもを支える学校環境と心の健康』第5章3, 明石書店, 130-141p, 2013
	著書 (その他)	単著	坪井裕子(2002)児童養護施設におけるネグレクトされた男児のプレイセラピー。ーCIの中の「怪獣」をめぐるー, 心理臨床ー名古屋大学発達心理精神科学教育研究センター心理発達相談室紀要ー 17 105-116
			坪井裕子(2003)ロス・アンジェルスにおける日本語による障害児グループ活動, 名古屋大学教育発達科学研究科紀要(心理発達科学)50 115-122
			坪井裕子(2004)虐待を受けた子どものプレイセラピーにおける初期の関係づくりについて, 心理臨床ー名古屋大学発達心理精神科学教育研究センター心理発達相談室紀要ー 19 101-109
			坪井裕子(2004)ネグレクトされた女児のプレイセラピーーネグレクト状況の再現と育ち直しー.心理臨床学研究 22(1)12-22
			坪井裕子(2005)火遊びと遺尿・遺糞を主訴とする施設入所児のプレイセラピー, 心理臨床ー名古屋大学発達心理精神科学教育研究センター心理発達相談室紀要ー 20 69-77
坪井裕子(2005)Child Behavior Checklist/4-18(CBCL)による被虐待児の行動と情緒の特徴ー児童養護施設における調査の検討ー, 教育心理学研究 53 (1) 110-121			
坪井裕子(2005)被虐待児の支援に関する現状と課題, 名古屋大学教育発達科学研究科紀要(心理発達科学)52 47-57			
坪井裕子(2006)被虐待児の家庭背景等に関する調査の検討, 心理臨床ー名古屋大学発達心理精神科学教育研究センター心理発達相談室紀要ー 21 13-18			
坪井裕子(2008)場面緘黙を続ける女児とのプレイセラピー, 臨床心理研究-人間環境大学附属臨床心理相談室紀要, 2, 5-15			
坪井裕子(2008)児童養護施設における臨床心理士の役割と課題, 人間環境大学人間環境学部紀要「こころとことば」, 7, 47-59			

学術論文	ファースト オーサー	坪井裕子(2009)小中学校における学生サポーター活用について, 人間環境大学人間環境学部紀要「こころとことば」, 8, 61-73	
		坪井裕子(2012)児童養護施設におけるグループアプローチの試み, 臨床心理研究-人間環境大学附属臨床心理相談室紀要, 6, 55-64	
		坪井裕子(2013)予期せぬ出来事にさらされた方への支援について, 心理臨床-名古屋大学発達心理精神科学教育研究センター心理発達相談室紀要-1, 28, 19-23	
		坪井裕子・森田美弥子・松本真理子(2007)被虐待体験のある小学生のロールシャッハ反応, 心理臨床学研究, 25 (1) 13-24	
		坪井裕子・李明憲(2007)虐待を受けた子どもの自己評価と他者評価による行動と情緒の問題—Child Behavior Checklist/4-18 (CBCL)とYouth self report (YSR)を用いた調査の検討—, 教育心理学研究, 55(3)335-346	
		坪井裕子・三後美紀(2011)「児童福祉施設の職員による子どもの問題行動の困難性の認知と対応行動の関係」子どもの虐待とネグレクト, 13(1) 105-114	
		坪井裕子・三後美紀(2011)児童福祉施設における子どもへの対応に関する若手職員へのインタビューの分析, 人間環境大学紀要「人間と環境」, 2, 45-58	
		Tsuboi H.,Matsumoto, et al., (2012)Japanese Children's Quality of Life(QOL) - A Comparison with Finnish Children -, <i>Japanese Journal of Child and Adolescent Psychiatry</i> , 53, Supplement, 14-25	
		坪井裕子・松本真理子・他(2012)被虐待児のロールシャッハ反応の特徴と問題行動との関連, 人間環境大学紀要「人間と環境」電子版 No.3, 35-44	
		坪井裕子・松本真理子・他(2012)子どものロールシャッハ法における父親・母親イメージ図版の検討, 人間環境大学紀要「人間と環境」, 3, 1-9	
	坪井裕子・松本真理子・他(2013)フィンランドにおける児童福祉施設の実際, 人間環境大学紀要「人間と環境」電子版 No.6, 13-24		
	特別の役割		
	共著	その他	李明憲・坪井裕子(2003)Youth Self Report(YSR)による被虐待児の情緒・行動問題の特徴 - 児童養護施設児を対象とした検討-, 乳幼児医学・心理学研究 12(1)43-50
			白井博美・松本真理子・鈴木伸子・森田美弥子・坪井裕子・畠垣智恵(2009)ロールシャッハ法における日本人幼児の反応内容と領域, 心理臨床学研究, 27 (3) 365-371
			松本真理子・畠垣智恵・鈴木伸子・坪井裕子・他(2011)日本人児童のロールシャッハ法におけるPopular反応 性差の視点を中心に, 心理臨床学研究, 28(6) 805-810
			中西和紀・坪井裕子・他(2011)発達障害児をもつ親のためのグループ活動に関する報告, 臨床心理研究-人間環境大学附属臨床心理相談室紀要, 5, 65-73
			袴田雅大・鈴木伸子・坪井裕子・他(2012)「子どものロールシャッハ反応における形態水準とPopular反応の再検討—成人基準と子ども基準—」心理臨床学研究, 30(3), 406-410
			野村あすか・松本真理子・坪井裕子・他(2012)「文章完成法から見た小・中学生の学校における自己像および対人関係の発達の变化」学校メンタルヘルス, 15(1), 67-78
			三後美紀・坪井裕子(2013)児童福祉施設入所児のコーピングと適応, 臨床心理研究-人間環境大学附属臨床心理相談室紀要, 7, 37-41
			野村あすか・松本真理子・坪井裕子・他(2013)フィンランドにおけるひきこもり傾向児に対する多面的アプローチ-質問紙法、投影法、および行動観察を通じた自己像と対人関係の検討-, 心理臨床-名古屋大学発達心理精神科学教育研究センター心理発達相談室紀要-1, 28, 25-36.
野村あすか・松本真理子・坪井裕子・他(2013)「文章完成法から見た日本とフィンランドの児童生徒の自己像と対人関係」心理臨床学研究, 31(5), 844-849			
松本真理子・窪田由紀・吉武久美・坪井裕子・他(2014)「児童生徒を対象とした心の減災能力育成に関する研究—現状調査とプログラム開発を中心に—」東海心理学研究, 8, 2-11			

			鈴木伸子・松本真理子・坪井裕子・他(2014)「小中学生の対人葛藤解決とQOL」学校メンタルヘルス, 17(2), 152 - 161.
			米澤由実子・坪井裕子(2015)児童福祉施設における性教育の取り組み—X県内の各施設取組みの報告集より—, 臨床心理研究-人間環境大学附属臨床心理相談室紀要, 9, 35-44
	確認された被引用論文 (引用論文、件数など)		
	その他		坪井裕子(2011)「子ども虐待と家族支援」日本心理臨床学会編「心理臨床学事典」, 丸善出版(株)570-571p
	翻訳		石隈利紀・松本真理子・飯田順子監訳(2013)『世界の学校心理学事典』明石書店, 16章(189-200p), 23章(267-278p), 26章(301-312p)
	教科書等		
	外部研究資金 獲得状況 (学術振興会特別研究員など)		平成18年度～平成21年度, 科学研究費補助金基盤研究(B)課題番号18330149(研究分担者)「子どものロールシャッハ法に関する包括的研究」(研究代表者:松本真理子名古屋大学教授)
			平成20年7月～平成21年9月, 平成20年度財団法人社会安全研究財団研究助成金(研究代表者)「虐待を受けた子どもたちの攻撃性と児童福祉施設における対応に関する研究」
			平成21年度～平成23年度, 科学研究費補助金基盤研究(C)課題番号21530747(研究代表者)「児童福祉施設における被虐待児の心理的援助に関する研究」
			平成24年4月～平成25年10月, 平成24年度財団法人社会安全研究財団研究助成金(研究代表者)「児童福祉施設における性的問題の実態と対応についての調査」
			平成24年度～平成25年度, 科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究)課題番号24653193(研究分担者)「子どもの心の減災支援基盤の構築—学校における包括的な心の健康教育モデルの提言—」(研究代表者:松本真理子名古屋大学教授)
			平成24年度～平成27年度, 科学研究費補助金基盤研究(C)課題番号24530865(研究分担者)「日本人児童における対人交渉能力発達支援モデルの提言-全国調査と国際比較を通して-」(研究代表者:鈴木伸子愛知教育大学准教授)
			平成27年度～平成30年度, 科学研究費補助金基盤研究(C)課題番号15K04159(研究代表者)「児童福祉施設における子どもの包括的発達支援モデルの構築」
	学術に関する受賞歴		
	所属学会		日本心理臨床学会, 日本子どもの虐待防止学会, 日本教育心理学会 日本発達心理学会, 日本乳幼児医学・心理学会, 日本児童青年精神医学会, 日本学校メンタルヘルス学会, 東海心理学会, 日本心理学会 日本遊戯療法学会, 日本ロールシャッハ学会, 日本学校心理学会
	社会的活動の状況		愛知県臨床心理士会専門委員 名古屋市教育委員会いじめ対策検討会議委員 愛知県教育委員会いじめ問題対策委員会委員
	大学設置・学校法人審議会 科目担当審査経歴 (科目、年月)		
	担当科目		教育心理学Ⅰ・Ⅱ, 心理コース演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 臨床心理査定演習・臨床心理実習・心理学特別演習 臨床心理面接特論・障害者心理学特論
	教育に関する特別の業績		

教員業績データベース(公表)

データ最終更新日 2015年6月29日

氏名	内藤可夫		
専門	哲学、倫理学、環境倫理学		
学位	京都大学博士(人間・環境学)		
学歴	1992年3月	京都大学文学部哲学科哲学専攻	
	1994年3月	京都大学大学院人間・環境学研究科人間環境学専攻 修士課程修了	
	1997年3月	京都大学大学院人間・環境学研究科人間環境学専攻 博士課程修了	
5年以内の学術論文	博士學位論文		
	後期ニーチェの根本思想		
	「存在概念の由来としての「自身」概念と他者概念: ニーチェ・和辻哲郎による存在批判からの可能性」、内藤可夫著、2015年3月、『人間と環境 電子版 9』、人間環境大学、p33-p44		
	「人間環境学研究: 学としての可能性と教育システム理念としての意義」、内藤可夫著、2014年11月、『人間と環境 5』、人間環境大学13-28		
	「和辻哲郎『人間の学としての倫理学』における倫理的存在論の着想: 東洋倫理思想による存在論転換の試みの今日的可能性について」、内藤可夫著、2014年3月、『人間と環境 電子版 7』、p14-p24		
	「社会、他者、倫理および人格の存在論的意義について: 存在概念の由来に関する試論」内藤可夫著、2012年11月、『人間と環境 電子版 4』、人間環境大学、p1-p11		
	「ニーチェにおける「超人」への階梯について: < 問い > の構造からの検証」、内藤可夫著、2011年11月、『人間と環境 2』、人間環境大学、p15-p29		
	「ニーチェにおける人格概念」、内藤可夫著、2011年3月、『人間と環境 1』、人間環境大学、p23-p34		
	著書 (学術)	単著	『ニーチェ思想の根柢』1999年12月、晃洋書房、272頁
		共著	『人間環境の創造』、1999年7月、勁草書房、252頁、(分担部分219-228頁「倫理の問題としての環境問題」)
	学術論文	単著	「存在概念の由来としての「自身」概念と他者概念: ニーチェ・和辻哲郎による存在批判からの可能性」、内藤可夫著、2015年3月、『人間と環境 電子版 9』、人間環境大学、p33-p44
			「人間環境学研究: 学としての可能性と教育システム理念としての意義」、内藤可夫著、2014年11月、『人間と環境 5』、人間環境大学13-28
「和辻哲郎『人間の学としての倫理学』における倫理的存在論の着想: 東洋倫理思想による存在論転換の試みの今日的可能性について」、内藤可夫著、2014年3月、『人間と環境 電子版 7』、p14-p24			
「社会、他者、倫理および人格の存在論的意義について: 存在概念の由来に関する試論」内藤可夫著、2012年11月、『人間と環境 電子版 4』、人間環境大学、p1-p11			
「ニーチェにおける「超人」への階梯について: < 問い > の構造からの検証」、内藤可夫著、2011年11月、『人間と環境 2』、人間環境大学、p15-p29			
「ニーチェにおける人格概念」、内藤可夫著、2011年3月、『人間と環境 1』、人間環境大学、p23-p34			
「ニーチェのニヒリズム思想へのエピクロスの影響-死への思索の必然性について」、2010年3月、人間環境大学人間環境学部編『人間環境論集』8、2-11頁			
「ニーチェの構想する哲学後の哲学と現代」、2010年2月、『理想』684号、理想社、166-176頁			
「ニーチェのヘラクレイトス解釈における「人格」の問題について」、2009年3月、『人間環境論集』8、人間環境大学人間環境学部編、2-13頁			
「人間存在の可能性と教育の目的の再生」、2008年3月、『人間環境論集』7、人間環境大学人間環境学部編、23-32頁			
「現代文明の運命-一生の無から人間の無へ-」、2007年7月、『アルケー』15号、関西哲学会編、150-163頁			
「鈴木正三における死の思索の誠実性」、2007年3月、『人間環境論集』6、人間環境大学人間環境学部編、15-28頁			

研究業績		「環境倫理学の歴史的意義」、2005年3月、『人間環境論集』4、人間環境大学人間環境学部編、64-71頁
		「死の存在論的究明の条件」、2004年3月、『人間環境論集』3、人間環境大学人間環境学部編、34-46頁
		「環境倫理学の可能性の条件」、1999年3月、『人間存在論』第5号、京都大学大学院人間・環境学研究科総合人間学部『人間存在論』刊行会編、93-105頁
		「ニーチェにおける身体論」、1997年6月、『アルケー』第5号、関西哲学会編、63-73頁
		「ニーチェにおけるニヒリズムと自然」、1997年3月、『人間存在論』第3号、京都大学大学院人間・環境学研究科『人間存在論』刊行会編、605-615頁
		「ニーチェにおける「生」」、1996年12月、『人間・環境学』第5号、京都大学人間環境学研究科編、57-68頁
		「ニーチェにおける「権力への意志」の批判的検討」、1995年3月、『人間存在論』第1号、京都大学大学院人間・環境学研究科『人間存在論』刊行会編、185-195頁
確認された被引用論文 (引用論文、件数など)		「和辻哲郎『人間の学としての倫理学』における倫理的存在論の着想：東洋倫理思想による存在論転換の試みの今日的可能性について」、2014年3月-「ミラーニューロンをめぐる研究動向の検証：神経細胞水準からみる「他者」の色合いの解明に向けて」遠藤 野ゆり著『生涯学習とキャリアデザイン』12(2), 37-46, 2015年3月、法政大学キャリアデザイン学会
		『ニーチェ思想の根柢』1999年12月、晃洋書房-「中期ニーチェにおける哲学的方法としてのイロニーー価値転換と創造への契機」、和田基樹著、2008年3月法政大学大学院『法政大学大学院紀要』
		『ニーチェ思想の根柢』1999年12月、晃洋書房-小野塚正樹「ニーチェにおけるニヒリズムと人間形成」東北大学大学院教育学研究科研究年報第56集-第1号、2007年、
		「環境倫理学の可能性の条件」、1999年3月-「環境倫理の成立条件としての倫理」、中橋 誠著 2006年3月、『大阪大学大学院文学研究科紀要』46、p 23-p35
		書評 内藤可夫著 人間存在論叢書『ニーチェ思想の根柢』(晃洋書房1999年)、著者：井上、克人、2004年、『理想』第673号、理想社pp.170-173
その他		「日本人の職業倫理の成立と衰退-鈴木正三と現代(歴史から見る倫理の現在)」、単著、2013年7月、おかしん総研『岡崎信用金庫 調査月報』、2013 8、32-41頁
		「日本のこころの変転-京都学派と内藤湖南の理想(歴史から見る倫理の現在 第2回)」、単著、2013年8月、おかしん総研『岡崎信用金庫 調査月報』、2013 9、16-25頁
		「昭和日本の悔悟の倫理(歴史から見る倫理の現在 第3回)」、単著、2013年9月、おかしん総研『岡崎信用金庫 調査月報』、2013 10、28-36頁
		「津波の後の自然と人間-平安時代と現代の日本(歴史から見る倫理の現在 第4回)」、単著、2013年10月、おかしん総研『岡崎信用金庫 調査月報』、2013 11、34-40頁
		「うつくしい“かたち”の歴史 美の変遷と現代(歴史から見る倫理の現在 第5回)」、単著、2013年11月、おかしん総研『岡崎信用金庫 調査月報』、2013 12、22-30頁
		「「コンプライアンス」問題の深層-人格の倫理と聖職」、単著、2013年12月、おかしん総研『岡崎信用金庫 調査月報』、2014 1、22-30頁
翻訳		ゲルノット・ベーム著『雰囲気的美学-新しい現象学の挑戦』2006年7月 晃洋書房、共訳、71頁-80頁
		ゲルノット・ベーム「雰囲気としての光」共訳 2001年7月、『理想』667号、理想社刊、2-10頁
		G・ヴォールファルト「エゴの死」共訳 1999年3月、『人間存在論』第5号、京都大学大学院人間・環境学研究科総合人間学部『人間存在論』刊行会編、43-55頁
		S.ミュラー「情報の宇宙の中で-ライブニッツ『モナドロジー』における「世界」概念について」、共訳、1997年3月、『人間存在論』第3号、京都大学大学院人間・環境学研究科総合人間学部『人間存在論』刊行会編、57-70頁

<p>外部研究資金 獲得状況 (学術振興会特別研究員など)</p>	<p>日本学術振興会 特別研究員DC1、1994年4月-1997年03月</p>
<p>所属学会</p>	<p>日本哲学会 日本現象学会 関西哲学会 関西倫理学会</p>
<p>社会的活動の状況</p>	<p>財団法人地域総合研究所 美し地域づくり検討委員会ワーキング委員、2004年1月-2005年3月 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所 共同研究員、2004年4月-2005年3月 財団法人地域総合研究所 風土・文化と調和した川づくり研究会検討委員、2004年12月-2005年3月</p>
<p>大学設置・学校法人審議会 科目担当審査経歴 (科目、年月)</p>	<p>1997年8月 大学設置・学校法人審議会・教員資格審査、大阪工業大学、兼任講師(「哲学Ⅰ」および「哲学Ⅱ」) 1999年8月 大学設置・学校法人審議会・教員資格審査、人間環境大学人間環境学部人間環境学科 助教授(「環境倫理学講義」、「環境倫理学特殊講義Ⅰ(自然と生)」、「環境倫理学特殊講義Ⅱ(環境行動論)」、「環境倫理学演習Ⅰ」、「環境倫理学演習Ⅱ」、「環境倫理学プロゼミナール」、「倫理学講義」、「卒業論文」) 2002年8月 大学設置・学校法人審議会・教員資格審査、教員資格認定人間環境大学大学院人間環境学研究科人間環境専攻(修士課程)助教授(専任)M合 「環境倫理特論」担当</p>
<p>担当科目</p>	<p>人間環境学 講義(人間環境学部／看護学部) 生命と環境の倫理 講義(人間環境学部) 環境思想 講義(人間環境学部) 環境文献講読Ⅰ,Ⅱ(人間環境学部) 環境コース演習(Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ) 哲学 講義(人間環境学部／看護学部) 倫理学 講義(人間環境学部) 環境倫理学特論(人間環境学研究科) 人間存在基礎論演習(人間環境学研究科) 人間存在基礎論特論(人間環境学研究科)</p>

教員業績データベース(公表)

データ最終更新日 2015年6月23日

氏名	長井正博			
専門	水圏化学、地球化学			
学位	京都大学博士(人間・環境学)			
学歴	1994年3月	京都大学工学部工業化学科卒業		
	1994年4月	京都大学大学院人間・環境学研究科人間・環境学専攻修士課程入学		
	1996年3月	京都大学大学院人間・環境学研究科人間・環境学専攻修士課程終了		
	1996年4月	京都大学大学院人間・環境学研究科人間・環境学専攻博士後期課程進学		
	1999年3月	京都大学大学院人間・環境学研究科人間・環境学専攻博士後期課程所定の研究指導認定退学		
研究業績	博士學位論文		縮合ケイ酸の分析化学並びに環境化学的研究	
	5年以内の学術論文		Tatsuaki Hori, Keizou Niki, Yoshiaki Kiso, Tatsuo Oguchi, Yuki Kamimoto, Toshiro Yamada, Masahiro Nagai: Ammonium detection by formation of colored zebra-bands in a detecting tube, Talanta, 81, 1467-1471 (2010). Keizou Niki, Yoshiaki Kiso, Takanori Takeuchi, Tatsuaki Hori, Tatsuo Oguchi, Toshiro Yamada and Masahiro Nagai: A spot test for nitrite and nitrate detection by color band length and number of colored zebra-bands formed in a mini-column, Analytical Methods, 2, 678-683 (2010). Satoshi Asaoka, Yoshiaki Kiso, Tsubasa Oomori, Hideo Okamura, Toshiro Yamada, Masahiro Nagai: An online solid phase extraction method for the determination of ultratrace level phosphate in water with a high performance liquid chromatograph, Chemical Geology, 380, 41-47 (2014).	
	著書 (学術)	単著		
		共著	古米弘明, 山本晃一, 佐藤和明(編): ケイ酸-その行方と由来, 技報堂出版, 東京(2012).	
	著書 (その他)	単著		
		共著		
	学術論文	単著		
		共著	ファーストオーサー	Masahiro Nagai, Masahito Sugiyama, Toshitaka Hori: Environmental chemistry of rivers and lakes, Part VII. Fractionation by calculation of suspended particulate matter in Lake Biwa into three types of particles of different origins, Limnology, 2, 147-155(2001). 長井正博, 堀 智孝, 藤永太郎. ケイ酸塩の地球化学と環境化学, 海洋化学研究, 15(1), 50-59 (2002).
				Masahiro Nagai, Masahito Sugiyama and Toshitaka Hori. Sensitive Spectrophotometric Determination of Phosphate Using Silica-gel Collectors. Analytical Sciences, 20, 341-344 (2004).
			特別の役割	

		その他	
	確認された被引用論文 (引用論文、件数など)		
	その他		
	翻訳		
	教科書等		片山幸士, 木曾祥秋(編): ベーシック分析化学実験, ケイ・ディ・ネオブック, 京都 (2003)
	外部研究資金 獲得状況 (学術振興会特別研究員など)		
	学術に関する受賞歴		
	所属学会		水環境学会 日本森林学会 日本陸水学会
	社会的活動の状況		岡崎市水環境創造プラン乙川部会委員(2006-2007) 岡崎市水循環推進協議会委員 (2008-現在)
	大学設置・学校法人審議会 科目担当審査経歴 (科目、年月)		
	担当科目		物質と原子(基礎化学I) 物質と生物(基礎化学II) 物質と化学反応(基礎化学II) 熱・光・エネルギー(基礎物理学) 植物体内での水と物質のはたらきI 植物体内での水と物質のはたらきII 地球と農地での物質の動き 水溶液の化学 機器化学分析の基礎と原理 環境コース演習(卒業研究)I 環境コース演習(卒業研究)II 環境コース演習(卒業研究)III 環境コース演習(卒業研究)IV 環境分析化学特論 環境分析化学演習及び実験
	教育に関する特別の業績		

教員業績データベース(公表)

データ最終更新日 2015年6月22日

氏名	花井 しおり				
専門	日本古代文学・万葉集				
学位	奈良女子大学博士(文学)				
学歴	1989年3月	京都女子大学文学部国文学科卒業			
	1992年3月	京都女子大学大学院文学研究科(修士課程)国文学専攻修了			
	2002年3月	奈良女子大学大学院人間文化研究科(博士後期課程)修了			
研究業績	博士學位論文		田辺福麻呂の歌と方法		
	5年以内の学術論文				
	著書 (学術)	単著			
		共著	『井手至先生古稀記念論文集 国語国文学藻』和泉書院		
			『セミナー万葉の歌人と作品』第8巻 和泉書院 『セミナー万葉の歌人と作品』第12巻 和泉書院		
	著書 (その他)	単著	『万葉集一日一首 美しい日本の心をよむ』致知出版社		
		共著			
	学術論文	単著	『『追和大宰之時梅花新歌六首』の『追和』の方法をめぐって』 奈良女子大学国語国文学会『叙説』第27号		
			『田辺福麻呂の来越歌群の冒頭四首－『新歌』と『古詠』そして『ほととぎす』－』『井手至先生古稀記念論文集 国語国文学藻』和泉書院		
			『久邇の新京を讃むる歌二首』奈良女子大学大学院人間文化研究科『人間文化研究科年報』第16号		
			『福麻呂を饗す歌』『セミナー万葉の歌人と作品』第8巻 和泉書院		
			『寧楽の故郷を悲しびて作る歌－田辺福麻呂の宮廷儀礼歌－』 萬葉学会『萬葉』第184号		
			『『橘』と『あふち』一家持と書持『ほととぎす』をめぐる贈答－』 奈良女子大学文学部『研究年報』第47号		
			『田辺福麻呂の修辞』奈良女子大学国語国文学会『叙説』33号		
		『福麻呂の行路死人歌』人間環境大学人間環境学部紀要『藝』 第19号			
		共著	ファーストオーサー		
			特別の役割		
その他					
確認された被引用論文(引用論文、件数など)					
その他		岡崎信用金庫『調査月報』No.497～No, 501 日本会議『日本の息吹』No, 270～No, 272			
翻訳					
教科書等					

<p>外部研究資金 獲得状況 (学術振興会特別研究員など)</p>	
<p>学術に関する受賞歴</p>	
<p>所属学会</p>	<p>萬葉学会・上代文学会・萬葉語学文学研究会・美夫君志会(理事) 奈良女子大学日本アジア言語文化学会</p>
<p>社会的活動の状況</p>	<p>奈良県「斑鳩町の歴史を知る会」講師(平成17年～平成25年) 奈良県婦人会館「万葉集入門」講師(平成17年度) 大阪府茨木市生涯学習センター「鑑賞万葉集Ⅱ」講師(平成17年) 岡崎市民カレッジ大学開放講座講師(平成19年) 名古屋市生涯学習推進センター大学連携講座講師(平成20年) 淡海万葉の会講師(平成22年～現在に至る) 教員免許状更新講習「国語」(国文学)講師(平成21年～現在に至る)</p>
<p>大学設置・学校法人審議会 科目担当審査経歴 (科目、年月)</p>	
<p>授業担当科目</p>	<p>「日本文学の基礎Ⅰ・Ⅱ」「日本のことばⅠ・Ⅱ」 「日本の文学(古典文学)」「日本の文学(近現代の文学)」 「日本語学演習」「日本の文学演習(古典)」「日本文学の歴史」 「日本文学演習Ⅰ・Ⅱ(現代文)」「卒業演習Ⅰ・Ⅱ(国語)」 「海外大学単位互換科目A・C」</p>
<p>教育に関する特別の業績</p>	

教員業績データベース(公表)

データ最終更新日 2015年6月29日

氏名	日比野 雅彦		
専門	フランス文学・フランス語教育		
学位	文学修士		
学歴	1976年3月	愛知県立大学外国語学部フランス学科卒業	
	1979年3月	名古屋大学大学院文学研究科博士課程前期修了	
	1982年3月	名古屋大学大学院博士課程後期満期退学	
研究業績	博士學位論文		
	5年以内の学術論文		
	著書 (学術)	単著	
		共著	
	著書 (その他)	単著	『はじめてのコミュニケーションフランス語』(2000)
		共著	『西洋中世研究およびロマンス語研究関係記念献呈論集目次総覧』(1981)
			『名古屋地区フランス研究関係外国雑誌所在一覧』(1983)
			『小学館ロベール仏和大辞典』(1988)
			『西洋中世文明ロマンス語研究所所蔵文献目録 新編版』(1989)
			『プログレッシブ仏和辞典』(1993)
			『小学館ポケット仏和・和仏辞典』(1994)
	『日常の言葉、詩的言語、演劇の言語—特に、フランスにおけるその系譜』(竹市明弘・渡辺雄三・早川 勇 編『心とコミュニケーション—精神環境の探求—』(「人間環境学シリーズ 第2巻」)		
	学術論文	単著	「Molière 劇における servante について」(『日本フランス語フランス文学会中部支部研究報告集 No. 4』、1980年3月)
			「Le Tartuffe におけるファルスの側面」(『日本フランス語フランス文学会中部支部研究報告集 No. 5』、1981年3月)
			「Molière, L'Ecole des femmes をめぐる論争—《comédie》の対立」(『日本フランス語フランス文学会中部支部研究報告集 No.6』、1982年3月)
			「Le Misanthrope—人物描写の喜劇」(『中京大学教養論叢 Vol.23, No.3』、1982年12月)
			「La GrangeのRegistreから見た座長Molière」(『中京大学教養論叢 Vol.25, No.1』、1984年5月)
			「モリエール『エリートの姫君』におけるコメディ・バレーの構造」(『中京大学教養論叢 Vol.27, No.2』、1986年9月)
			「『オルケヅグラフィ』から見た16世紀宮廷バレエ試論」(『東海産業短期大学紀要 第3号』、1989年3月)
			「フランス語の辞書の話」(『言葉と教育—八田重雄博士喜寿記念論文集』、岡崎学園国際短期大学、1994年7月)
「地方巡業時代のモリエール」(『人間と環境 第2号』、岡崎学園国際短期大学人間環境学研究所、1998年10月)			
「17世紀フランスの文化と社会—ヴェルサイユ宮殿ができるまで」(『人間と環境—人間環境学研究所研究報告』5、人間環境学研究所、2002年12月)			
「『ル・シッド』と17世紀フランスの社会」(『こころとことば』4、人間環境大学、2005年3月)			
「『三銃士』に見られる劇的語法の秘密」(『こころとことば』7、人間環境大学、2008年3月)			

		ファースト オーサー	
		特別の役 割	
		その他	
	確認された被引用論文 (引用論文、件数など)		
	その他		『フランス語フランス文学研究文献要覧1991』、日外アソシエーツ、1995年10月(共編 日本フランス語フランス文学会資料調査委員会) 『フランス語フランス文学研究文献要覧1992』、日外アソシエーツ、1995年10月(共編 日本フランス語フランス文学会資料調査委員会) 『フランス語フランス文学研究文献要覧1993/1994』、日外アソシエーツ、1998年10月(共編 日本フランス語フランス文学会資料調査委員会) ・『第6回フランス語教育に関する調査集計報告書』、日本フランス語フランス文学会、2000年3月(共編 日本フランス語フランス文学会語学教育委員会)
	翻訳		小沢正夫編『フランスの日本古典研究』、ペリかん社、1985年9月。担当部分—フランク「和歌の浮島は実在か虚構か」(共訳 小沢正夫)41頁～63頁、—エライユ「宮廷文人大江匡衡」(共訳 小沢正夫)65頁～92頁
	教科書等		『アロー・フランス 日本版』(フランス語教科書)、白水社、1993年3月(共編 大久保正憲、富田正二、松本陽正、日比野雅彦) 『赤ずきんちゃん』(フランス語教科書)、早美出版社、1996年3月
	外部研究資金 獲得状況 (学術振興会特別研究員など)		
	学術に関する受賞歴		
	所属学会		日本フランス語フランス文学会 日本フランス語教育学会
	社会的活動の状況		公益財団法人フランス語振興協会理事 実用フランス語技能検定(仏検)名古屋会場責任者および二次試験面接担当者(2011年まで)
	大学設置・学校法人審議会 科目担当審査経歴 (科目、年月)		1991年岡崎学園国際短期大学設置審議会(フランス語、フランス文化論、フランス事情) 1999年人間環境大学設置審議会(演劇言語論講義、演劇言語論特殊講義、演劇言語論演習、フランス語、海外言語文化実習) 2014年人間環境大学看護学部(ヨーロッパの芸術文化)
	担当科目		フランス語、英語、基礎ゼミナール、日本語リテラシー、欧米の歴史 ヨーロッパの芸術文化
	教育に関する特別の業績		学生部長として学生の生活支援

教員業績データベース(公表)

データ最終更新日 2015年6月25日

氏名	藤井伸二	
専門	植物分類学, 植物地理学, 保全生物学, 博物館学	
学位	理学修士	
学歴	1988年3月	京都大学 理学部卒業
	1990年3月	京都大学 大学院理学研究科修士課程修了
研究業績	博士学位論文	
	5年以内の学術論文	<p>藤井伸二・上杉龍士・山室真澄. 2015. アサザの生育環境・花型・逸出状況と遺伝的多様性に関する追試. 保全生態学研究 20:71-85.</p> <p>藤井伸二. レッドリスト改訂に向けた課題整理: メーカーとユーザーの相克. 地域自然史と保全 36:27-35.</p> <p>藤井伸二・牧 雅之・國井秀伸. 島根県新産植物3種の記録(シログワイ, ノダイオウ, ヒメタデ)と アオヒメタデに関するノート. 分類 14:169-176.</p> <p>藤井伸二. 2013. ハマネナシカズラ(ヒルカオ科)の国内分布. 分類 13:103-107.</p> <p>藤井伸二・市川正人・吉田國二. 2013. 三重県から記録された希産植物2種: ヒメニラ, マイヅルテンナンショウ. 分類13: 129-131.</p> <p>藤井伸二. 2012. 国指定天然記念物「齋宮のハナショウブ群落」の維管束植物相. 人間と環境 3 (人間環境大学人間環境学部紀要30) :31-39.</p> <p>藤井伸二. 2012. ハーバリウムにおけるローン制度と貸し出し方法. 種生物学会(編) : 種間関係の生物学-共生・寄生・捕食の新しい姿-, p377-390. 文一総合出版, 東京.</p> <p>藤井伸二・山本和彦・狩山俊悟・瀬戸 剛・市川正人・海老原淳. 2012. 近畿地方新産のヒメキカシグサとその生育環境. 分類 12:53-57.</p> <p>藤井伸二・梅本信也. 2011. 粉白川河口(和歌山県那智勝浦町)の維管束植物相. 人間と環境 2 (人間環境大学人間環境学部紀要29) :61-72.</p> <p>藤井伸二・山本和彦・市川正人・山脇和也. 2011. オニナルコスゲ(カヤツリグサ科)を三重県から記録する. 分類 11:155-160.</p> <p>藤井伸二. 2011. 人間環境大学キャンパスおよび演習林の維管束植物目録. 人間と環境 1 (人間環境大学人間環境学部紀要 28) :47-60.</p> <p>藤井伸二・木下 覚. 2011. 四国地方におけるアズマツメクサ(ベンケイソウ科)の新産記録. 分類 11:49-52.</p> <p>藤井伸二・市川正人. 2010. キンキマメザクラを三重県から記録する. 関西自然保護機構会誌 32:127-129.</p> <p>藤井伸二・五百川 裕・石澤 進. 2010. アズマツメクサ(ベンケイソウ科)を新潟県から記録する. 水草研究会誌 94:41-43.</p> <p>藤井伸二・高倉耕一. 2010. 大阪府におけるオナモミ類の変遷(その2). Nature Study 56(11):2-5.</p> <p>藤井伸二・高倉耕一. 2010. 大阪府におけるオナモミ類の変遷(その1). Nature Study 56(10):6-8.</p> <p>藤井伸二・市川正人・山脇一也・藤井俊夫. 2010. 紀伊半島におけるソハヤキミズとコケミズ(イラクサ科)の新産地. 分類 10:163-166.</p> <p>藤井伸二. 2010. 信太山丘陵(大阪府)の植物相について. 関西自然保護機構会誌 32:21-36.</p> <p>藤井伸二. 2010. 岡崎市本宿町周辺における樹木相. 地域活性化研究9:15-27.</p> <p>藤井伸二. 2010. 芦生研究林枕谷におけるシカ摂食にともなう林床開花植物相の変化. 保全生態学研究 15: 3-15.</p> <p>藤井伸二. 2010. 三重県滝町枍ヶ池の種子植物リスト. 近畿植物同好会々誌 33:7-22.</p>

		<p>藤井伸二. 2010. 塩生植物シオクグ（カヤツリグサ科）を琵琶湖に記録する. 分類 10: 71-75.</p> <p>藤井伸二. 2010. トピックス：深刻化する生物多様性の危機. 生物の科学 遺伝 64(5):2-6.</p> <p>藤井伸二. 2010. 水田にホットスポットは存在するのか?. Sato Project News Letter 57: 2-5.</p> <p>藤井伸二. 2010. 地域版レッドリストづくりで身近な植物の危機的状況をつかむ. 自然保護 513: 14-15.</p> <p>Kadoya T, Takenaka A, Ishihama F, Fujita T, Ogawa M, et al. 2014. Crisis of Japanese Vascular Flora Shown By Quantifying Extinction Risks for 1618 Taxa. PLOS ONE 9(6). doi:10.1371/journal.pone.0098954</p> <p>F. Ishihama, S. Fujii, K. Yamamoto and T. Takada. 2014. Estimation of dieback process caused by herbivory in an endangered root-sprouting shrub species, <i>Paliurus ramosissimus</i> (Lour.) Poir., using a shoot-dynamics matrix model. <i>Popul Ecol</i> 56:275-288.</p> <p>内貴章世・松井淳・藤井伸二・瀬戸剛. 2010. 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第42集 奈良県産維管束植物標本目録I. シダ植物. 大阪市立自然史博物館.</p> <p>金子有子・栗林実・藤井伸二・佐々木安寧. 2010. 琵琶湖湖辺域の外来植物と貴重植物. 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター, 大津.</p> <p>Takakura, K.-I. and S. Fujii. 2010. Reproductive interference and salinity tolerance differentiate habitat use between two alien cockleburs: <i>Xanthium occidentale</i> and <i>X. italicum</i> (Compositae). <i>Plant Ecology</i> 206: 309-319.</p>	
著書 (学術)	単著		
	共著	<p>藤井伸二. 2012. 生物多様性からみた植物の現状と植物分類学が持つ市民科学の側面. 戸部 博・田村 実（編）：新しい植物分類学 II, p249-254. 講談社, 東京.</p> <p>伊藤元己・田村 実・戸部 博・永益英敏・藤井伸二・米倉浩司. 2012. APG III 分類体系. 戸部 博・田村 実（編）：新しい植物分類学 I, p230-238. 講談社, 東京.</p> <p>藤井伸二. 2010. 湿地環境の多様性と植物の生態特性. 坂上潤一・中園幹生・島村 聡・伊藤 治・石澤公明（編）：湿地環境と作物一環境と調和した作物生産をめざして一, p25-34. 養賢堂, 東京.</p> <p>志賀 隆・藤井伸二・瀬戸 剛. 2009. 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第41集 三木茂博士寄贈水草さく葉標本目録. 大阪市立自然史博物館, 大阪.</p> <p>藤井伸二. 2009. 原野・準原野の植物と寒地性植物. 西野真智子（編）：とりもどせ！琵琶湖・淀川の原因風景, p81-85. サンライズ出版, 彦根.</p> <p>藤井伸二. 2009. 植物からみた琵琶湖・淀川水系の特性. 西野真智子（編）：とりもどせ！琵琶湖・淀川の原因風景, p68-80. サンライズ出版, 彦根.</p> <p>藤井伸二. 2009. 水田雑草の自然誌. 佐藤洋一郎（監修）・木村栄美（編）：ユーラシア農耕史2日本人と米, p146-166. 臨川書店, 京都.</p> <p>藤井伸二・黒崎史平・藤井俊夫. 2004. 2004年版近畿地方の植物分布図文献目録, レッドデータブック近畿研究会（編）, 近畿地方植物誌, 237-257p. 大阪自然史センター, 大阪市.</p> <p>藤井伸二. 2002. 地方博物館とレッドリストづくり. 環瀬戸内地域自然史系博物館ネットワーク推進協議会（編）, 地域の自然の情報拠点自然史博物館, 21-31p. 高陵社書店, 東京.</p> <p>藤井伸二. 2002. 地方版レッドデータブックの成果と問題点. 種生物学会（編）, 保全と復元の生態学-野生生物を救う科学的思考, 95-107p. 文一総合出版.</p> <p>藤井伸二. 1996. コナラ-動物たちに狙われるどんぐり. 井上健（編）, 植物の生き残り作戦, 122-131p. 平凡社.</p>	
	著書 (その他)	単著	藤井伸二. 1995. ミニガイドNo.12 水辺とその植物たち-水辺ウォッチングへの招待-. 大阪市立自然史博物館.

		共著	<p>三重県環境森林部自然環境室（編）. 2006. 三重県レッドデータブック2005 植物・キノコ. （財）三重県環境保全事業団.</p> <p>京都府（編）. 2002. 京都府レッドデータブック（上巻）野生生物編. 京都府企画環境部企画課. （分担執筆）</p> <p>レッドデータブック近畿研究会（編）. 2001. 改訂・近畿地方の保護上重要な植物-レッドデータブック近畿2001-. （財）平岡環境科学研究所. （分担執筆）</p> <p>植物分科会ワーキングチーム（梅原徹・角野康郎・瀬戸剛・副島顕子・平野弘二・藤井伸二・藤井俊夫・村田源・山住一郎）. 2000. （9）植物編, 大阪府（編）, 大阪府における保護上重要な野生生物-大阪府レッドデータブック-, 290-429p. 大阪府.</p> <p>レッドデータブック近畿研究会（編）. 1995. 近畿地方の保護上重要な植物-レッドデータブック近畿-. 関西自然保護機構. （分担執筆）</p> <p>北龍館（編）. 1992. 日本列島花maps 近畿の花. 北龍館. （分担執筆）</p>
学術論文		単著	<p>藤井伸二. 2014. レッドリスト改訂に向けた課題整理：メーカーとユーザーの相克. 地域自然史と保全 36:27-35.</p> <p>藤井伸二. 2013. ハマネナシカズラ（ヒルカオ科）の国内分布. 分類13:103-107.</p> <p>藤井伸二. 2012. 生物多様性からみた植物の現状と植物分類学が持つ市民科学の側面. 戸部 博・田村 実（編）：新しい植物分類学II, p249-254. 講談社, 東京.</p> <p>藤井伸二. 2012. 国指定天然記念物「斎宮のハナショウブ群落」の維管束植物相. 人間と環境 3（人間環境大学人間環境学部紀要30）:31-39.</p> <p>藤井伸二. 2012. ハーバリウムにおけるローン制度と貸し出し方法. 種生物学会（編）：種間関係の生物学-共生・寄生・捕食の新しい姿-, p377-390. 文一総合出版, 東京.</p> <p>藤井伸二. 2011. 人間環境大学キャンパスおよび演習林の維管束植物目録. 人間と環境 1（人間環境大学人間環境学部紀要28）:47-60.</p> <p>藤井伸二. 2010. 信太山丘陵（大阪府）の植物相について. 関西自然保護機構会誌 32:21-36.</p> <p>藤井伸二. 2010. 岡崎市本宿町周辺における樹木相. 地域活性化研究9:15-27.</p> <p>藤井伸二. 2010. 芦生研究林枕谷におけるシカ摂食にともなう林床開花植物相の変化. 保全生態学研究 15: 3-15.</p> <p>藤井伸二. 2010. 三重県滝町枿ヶ池の種子植物リスト. 近畿植物同好会々誌 33:7-22.</p> <p>藤井伸二. 2010. 塩生植物シオクグ（カヤツリグサ科）を琵琶湖に記録する. 分類 10: 71-75.</p> <p>藤井伸二. 2010. 湿地環境の多様性と植物の生態特性. 坂上潤一・中園幹生・島村 聡・伊藤 治・石澤公明（編）：湿地環境と作物-環境と調和した作物生産をめざして-, p25-34. 養賢堂, 東京.</p> <p>藤井伸二. 2009. ハマナツメの個体群衰退とシカ食害の関係. 植生情報 13: 87.</p> <p>藤井伸二. 2009. 標本記録に基づいた近畿地方北部におけるキク科オナモミ属3種の過去の変遷. 保全生態学研究 14: 67-72.</p> <p>藤井伸二. 2009. 水湿地環境の諸特性からみた水辺植物の生活史の進化的理解-西日本を例として-. フェノロジー研究 44: 1-7.</p> <p>藤井伸二. 2009. 近畿地方植物分布ノート2：ムラサキセンブリ <i>Swertia pseudochinensis</i>（リンドウ科）の分布についての再検討. 分類9(1): 65-68.</p> <p>藤井伸二. 2008. 近畿地方植物分布ノート1：ヒメナエ <i>Mitrasacme indica</i>（マチン科）を和歌山県に記録する. 分類8(2): 157-159.</p> <p>藤井伸二. 2008. 三重県座佐池におけるツツイトモの分布記録と生育に関するノート. 水草研究会誌 89: 31-33.</p> <p>藤井伸二. 2008. 生物の多様性とそのメカニズム. 理科教室2008年3月号: 36-39.</p>

藤井伸二. 2008. 花に見る陸上植物の多様性. 理科教室2008年3月号: 30-36.
藤井伸二. 2008. 大阪市立自然史博物館収蔵種子植物標本目録3-モチノキ科-. 自然史研究 3(7): 107-125.
藤井伸二. 2007. 滋賀県西部におけるカツラカワアザミ(キク科)へのニホンジカの食害状況. 保全生態学研究12: 66-71.
藤井伸二. 2007. 新潟県福島潟でみたオニバス埋土種子の例. 水草研究会誌86: 26-28.
藤井伸二. 2007. 近畿地方におけるハイキビ2例目の産地. 分類7(1): 39-42.
藤井伸二. 2006. 船越池のアンペライ刈りと低湿地の植物. Nature Study 52(7): 12.
藤井伸二. 2006. 大阪市立自然史博物館収蔵種子植物標本目録2-薩摩黒島産標本-. 大阪市立自然史博物館研究報告60: 31-54.
藤井伸二. 2005. キキョウとフジバカマが語る草地の危機. 植物の自然誌プランタ 100: 44-55.
藤井伸二. 2004. 大阪府立大学総合科学部旧蔵の湿生・水生植物標本. 大阪市立自然史博物館研究報告58: 47-51.
藤井伸二. 2004. 地方植物研究会・同好会の抱える問題を考える. 日本植物分類学会ニュースレター13: 18-20.
藤井伸二. 2003. シーボルト植物標本に見る科学の目-標本における生物情報の編集を例に-. 日本分類学会連合ニュースレター3: 12-14.
藤井伸二. 2003. 新収蔵庫の完成と標本資料. 大阪市立自然史博物館館報27: 1-2.
Fujii, S. 2003. Notes on seed set ratio variation and reproductive plant size in <i>Euryale ferox</i> (Nymphaeaceae). Bull. Osaka Mus. Nat. Hist. 57: 29-32.
藤井伸二. 2003. シーボルト植物コレクション調査ノート2-伊藤圭介標本帖について-. 分類3: 53-58.
藤井伸二. 2002. 各都道府県別の植物自然史研究の現状: 27. 大阪府. 植物地理・分類研究50: 207-210.
藤井伸二. 2002. シーボルト植物コレクション調査ノート1 縦断囊果と斜切枝. 分類 2: 83-86.
藤井伸二. 2002. 社会教育を通じた分類学の発展. 日本分類学会連合ニュースレター1: 13-14.
藤井伸二. 2002. 大阪市立自然史博物館植物標本庫(O S A)について. 日本植物分類学会ニュースレター5: 25-27.
藤井伸二. 2001. レッドデータ植物-絶滅危惧種はなにを語るのか?- (2). Nature Study 47(7): 6-7.
藤井伸二. 2001. レッドデータ植物-絶滅危惧種はなにを語るのか?- (1). Nature Study 47(7): 1-5.
藤井伸二. 2000. タマミズキの豊凶(後)-被食による豊凶の誇張?- Nature Study 46(10): 11.
藤井伸二. 2000. タマミズキの豊凶(前)-結実個体数-. Nature Study 46(9): 9.
藤井伸二. 2000. 大阪市立自然史博物館収蔵種子植物標本目録1. 自然史研究 2(16): 245-256.
Fujii, S. 2000. A specimen list of <i>Arabis flagellosa</i> Miq. var. <i>flagellosa</i> used for morphological analyses in Fujii (1999). Bull. Osaka Mus. Nat. Hist. 54: 49-53.
藤井伸二. 2000. ヒキノカサの個体群規模と生態に関するノート. 水草研究会会報 69: 16-21.
藤井伸二. 2000. どんぐりをめぐる生物間相互作用の研究. エコフロンティア4: 44-47.
藤井伸二. 2000. スマトラ紀行(その4). 近畿植物同好会々誌23: 8-14.
藤井伸二. 1999. 絶滅危惧植物から見た琵琶湖湖岸環境の多様性とその特質. 関西自然保護機構会報 21(2): 141-149.

藤井伸二. 1999. 西の湖のスゲ. 関西自然保護機構会報 21(2): 93-94.
藤井伸二. 1999. 今川のオニバスは何個体?-学芸員体験コース・オニバス班の記録2-. Nature Study 45(8): 7-8.
藤井伸二. 1999. 大和川でヒキノカサを再発見!. Nature Study 45(7): 8.
藤井伸二. 1999. 絶滅危惧植物の生育環境に関する考察. 保全生態学研究 4(1): 57-69.
藤井伸二. 1999. 琵琶湖岸でハッチョウトンボを記録. Nature Study 45(4): 9.
Fujii, S. 1999. <i>Arabis flagellosa</i> var. <i>kawachiensis</i> (Cruciferae), a new variety from Kinki district, Central Japan. Bull. Osaka Mus. Nat. Hist. 53: 43-52.
藤井伸二. 1999. レッドデータブック作成と利用の課題. 自然史研究 2(15): 214-216.
藤井伸二. 1998. 滋賀県で生育が再確認されたヌマゼリの生態. 植物分類地理 49(2): 201-204.
藤井伸二. 1998. 琵琶湖の乙女ヶ池内湖にボタンウキクサ. 水草研究会会報 65: 21.
藤井伸二. 1998. スマトラ紀行(その3). Nature Study 44(6): 3-6.
藤井伸二. 1998. スマトラ紀行(その2). Nature Study 44(3): 3-7.
藤井伸二. 1997. 城北の「わんど」でみつかったオオマルバノホロシ. Nature Study 43(10): 6.
藤井伸二. 1997. 西スマトラにブナ科植物をもとめて. 日本熱帯生態学会ニューズレター. 27: 10-14.
Fujii, S. 1996. Floristic Study of Fagaceae in Lowland at West Sumatra. Annual Report of FBRT Project. 2: 143-157.
藤井伸二. 1996. スマトラ紀行. Nature Study 42(11): 3-6.
藤井伸二. 1996. 大阪府にイセウキヤガラが生育していた!. 水草研究会会報 58: 28-29.
藤井伸二. 1996. マルバノサワトウガラシ滋賀県朽木村で見つかる. 水草研究会会報 58: 27-28.
藤井伸二. 1996. 琵琶湖で観察された水鳥による沈水植物の食害例. Nature Study 42(10): 9.
藤井伸二. 1996. 雌花ばかりのブタクサその2. Nature Study 42(8): 8.
藤井伸二. 1995. 徳島県吉野川におけるイセウキヤガラの記録と生態ノート. 水草研究会会報 57: 12-14.
藤井伸二. 1995. 滋賀県におけるヤガミスゲの記録. 植物分類地理 46(2): 211.
藤井伸二. 1995. 雌花ばかりのブタクサ. Nature Study 41(12): 10.
藤井伸二. 1995. 琵琶湖の水草と1994年の湯水. 私たちの自然 409: 8-11.
Fujii, S. 1995. Progress Report of a Research on Floristic and Ecological Studies of the Fagaceae in West Sumatra. Annual Report of FBRT Project. 1: 197-211.
藤井伸二. 1995. タイヤが運んだシロイヌナズナ. Nature Study 41(10): 11.
藤井伸二. 1995. 1993・1994年に採集された琵琶湖産水草標本目録と分類・生態ノート. 自然史研究 2(11): 153-166.
藤井伸二. 1995. 標本ラベル記載事項の表記方法. JSPT Newsletter (植物分類学会ニュース) 79: 7-11.
藤井伸二. 1994. スマトラ調査雑記. 植物分類地理 45(2): 177-179.
藤井伸二. 1994. 琵琶湖岸の植物-海浜植物と原野の植物. 植物分類地理 45(1): 45-66.

		藤井伸二. 1994. 琵琶湖湖岸の「原野の植物」とその現状(2). Nature Study 40(11): 5-10.
		藤井伸二. 1994. 琵琶湖湖岸の「原野の植物」とその現状(1). Nature Study 40(9): 3-8.
		藤井伸二. 1994. ニガキ科. 週間朝日百科植物の世界 32: 231-235.
		藤井伸二. 1994. 琵琶湖湖岸の海浜植物とその現状. Nature Study 40(6): 3-7.
		Fujii, S. 1993. Studies on acorn production and seed predation in <i>Quercus serrata</i> -Growth, falling phenology, estimation of production, and insect seed predators-. Bull. Osaka Mus. Nat. Hist. 47: 1-17.
		藤井伸二. 1992. 花博採集記その6 ショウガ科の植物. Nature Study 38(9): 3-8.
		藤井伸二. 1991. 花の万博採集記その5 バンクシア-ヤマモガシ科の植物-. Nature Study 37(6): 5-10.
		藤井伸二. 1991. 花の万博採集記その4 バショウの仲間たち. Nature Study 37(4): 5-10.
		藤井伸二. 1990. 花の万博採集記その3 銀剣草. Nature Study 36(12): 5-9.
		藤井伸二. 1990. 花博採集記その2. Nature Study 36(10): 3-5.
		藤井伸二. 1990. 花の万博採集記その1. Nature Study 36(8): 9-11.
		藤井伸二. 1989. どんぐりに寄生する虫. 植物の自然誌プランタ 6: 24-28. 研成社.
共著	ファースト オーサー	藤井伸二・牧 雅之・國井秀伸. 島根県新産植物3種の記録(シログワイ, ノダイオウ, ヒメタデ)と アオヒメタデに関するノート. 分類 14:169-176.
		藤井伸二・市川正人・吉田國二. 2013. 三重県から記録された希産植物2種: ヒメニラ, マイヅルテンナンショウ. 分類13: 129-131.
		藤井伸二・山本和彦・狩山俊悟・瀬戸 剛・市川正人・海老原淳. 2012. 近畿地方新産のヒメキカシグサとその生育環境. 分類 12:53-57.
		藤井伸二・梅本信也. 2011. 粉白川河口(和歌山県那智勝浦町)の維管束植物相. 人間と環境 2(人間環境大学人間環境学部紀要 29):61-72.
		藤井伸二・山本和彦・市川正人・山脇和也. 2011. オニナルコスゲ(カヤツリグサ科)を三重県から記録する. 分類 11:155-160.
		藤井伸二・木下 覚. 2011. 四国地方におけるアズマツメクサ(ベンケイソウ科)の新産記録. 分類 11:49-52.
		藤井伸二・市川正人. 2010. キンキマメザクラを三重県から記録する. 関西自然保護機構会誌 32:127-129.
		藤井伸二・五百川 裕・石澤 進. 2010. アズマツメクサ(ベンケイソウ科)を新潟県から記録する. 水草研究会誌 94:41-43.
		藤井伸二・高倉耕一. 2010. 大阪府におけるオナモミ類の変遷(その2). Nature Study 56(11):2-5.
		藤井伸二・高倉耕一. 2010. 大阪府におけるオナモミ類の変遷(その1). Nature Study 56(10):6-8.
		藤井伸二・市川正人・山脇一也・藤井俊夫. 2010. 紀伊半島におけるソハヤキミズとコケミズ(イラクサ科)の新産地. 分類 10:163-166.
		藤井伸二・内貴章世. 2009. 大阪市立自然史博物館収蔵種子植物目録4ーニシキギ科ー. 自然史研究 3:143-158.
		藤井伸二・梅本信也. 2009. 和歌山県におけるヒメナミキ(シソ科)の産地記録. 関西自然保護機構会誌 31: 141-145.
		藤井伸二・梅本信也. 2009. コナミキ(シソ科)の和歌山県那智勝浦町における新産記録. 南紀生物 21: 81-82.
		藤井伸二・吉田國二・山本和彦・市川正人. 2009. ケチドメ(セリ科)を紀伊半島から記録する. 分類9: 173-177.

			藤井伸二・森小夜子. 2009. 琵琶湖岸におけるナミキソウ（シソ科）の逸出記録. 大阪市立自然史博物館研究報告 63: 11-14.
			藤井伸二・水野知巳. 2009. 移入と思われる伊勢湾のマツナ（アカザ科）. 植物研究雑誌 84: 50-54.
			藤井伸二・レッドデータブック近畿研究会. 2008. 近畿地方新産植物補遺 1. 分類8(2): 161-163.
			藤井伸二・志賀 隆・金子有子・栗林 実・野間直彦. 2008. 琵琶湖におけるミズヒマワリ（キク科）の侵入とその現状および駆除に関するノート. 水草研究会誌 89: 9-21.
			藤井伸二・小林史郎・小川 誠. 2008. 再発見された四万十川のマイヅルテンナンショウ（サトイモ科）と国内の分布および生育環境. 分類: 8(1): 73-79.
			藤井伸二・梅原 徹・古賀啓一・角野康郎・瀬戸口浩彰. 2008. 近畿地方におけるバイカモの分布に関する追記-滋賀県の移入産地と新産地ほか-. 分類: 8(1): 69-72.
			藤井伸二・安藤義範. 2007. 近畿地方新産のコバノウシノシッペイ（イネ科）. 分類7(2): 143-148.
			藤井伸二・山本和彦・瀬戸剛・市川正人・山脇和也. 2007. 奈良県および三重県から見つかったアズマツメクサ（ベンケイソウ科）とその生育環境に関するノート. 水草研究会誌86: 21-25.
			藤井伸二・山本和彦. 2007. 三重県におけるツツイトモ（ヒルムシロ科）の新産記録. 水草研究会誌86: 29-32.
			藤井伸二・西川博章・栗林実. 2007. 近畿地方新産のツルスゲとその分布および生態. 分類7(1): 43-49.
			藤井伸二・レッドデータブック近畿研究会. 2006. 近畿地方の植物分布に関する最近の知見と文献一覧. 分類6(2): 139-150.
			Fujii, S., S. Nishimura and T. Yoneda. 2006. Altitudinal distribution of Fagaceae in West Sumatra. TROPICS 15(2): 153-163.
			藤井伸二・山本和彦. 2006. セキショウモの開花結実時期と三重県における早期開花の例. 水草研究会誌 84: 7-10.
			藤井伸二・内貴章世. 2005. 1930年前後における水草の分布状況に関する資料の紹介-三木茂水草コレクション-. 水草研究会誌 82: 36-44.
			藤井伸二・狩山俊悟・榎本 敬. 2003. 1999年版紀伊大島植物目録（高等植物）の補遺およびカンアオイ属に関する分類学的ノート. 南紀生物45(2): 115-117.
			藤井伸二・黒崎史平. 2001. 近畿地方の植物分布図文献一覧（第2報）. 自然史研究 2(17): 245-249.
			藤井伸二・栗林実. 2000. 琵琶湖におけるヤナギトラノオの分布. 水草研究会会報 70: 17-19.
			藤井伸二・永益英敏・栗林実. 1999. 近畿地方新産のヤナギトラノオとその分布. 植物分類地理 50(1): 142-145.
			藤井伸二・藤井俊夫. 1999. 近畿地方の植物分布図文献一覧（予報）. 自然史研究 2(15): 237-244.
			藤井伸二・瀬戸剛. 1999. 身近な植物の危機, 近畿地方の現状. 自然史研究 2(15): 217-218.
			藤井伸二・木下覚. 1997. イセウキヤガラ（カヤツリグサ科）の越冬を確認. 植物分類地理 48(1): 79-80.
			Fujii, S., T. Yoneda and S. Nishimura. 1997. Specimen List of Fagaceae in Herbarium Universitas Andalas. Annual Report of FBRT Project. 3: 52-62.
	特別の役割		レッドデータプランツ（監修）. 2015. 山と溪谷社
			レッドデータブック2014維管束植物（監修）. 2015. 環境省
			三重県レッドデータブック2015. 2015. 三重県
			目で見分け五感で楽しむ野草図鑑（監修）. 2014. ナツメ社
	その他		Kadoya T, Takenaka A, Ishihama F, Fujita T, Ogawa M, et al. 2014. Crisis of Japanese Vascular Flora Shown By Quantifying Extinction Risks for 1618 Taxa. PLOS ONE 9(6). doi:10.1371/journal.pone.0098954

F. Ishihama, S. Fujii, K. Yamamoto and T. Takada. 2014. Estimation of dieback process caused by herbivory in an endangered root-sprouting shrub species, *Paliurus ramosissimus* (Lour.) Poir., using a shoot-dynamics matrix model. *Popul Ecol* 56:275-288.

伊藤元己・田村 実・戸部 博・永益英敏・藤井伸二・米倉浩司. 2012. APG III 分類体系. 戸部 博・田村 実(編):新しい植物分類学 I, p230-238. 講談社, 東京.

内貴章世・松井淳・藤井伸二・瀬戸剛. 2010. 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第42集 奈良県産維管束植物標本目録I. シダ植物. 大阪市立自然史博物館.

金子有子・栗林実・藤井伸二・佐々木安寧. 2010. 琵琶湖湖辺域の外来植物と貴重植物. 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター, 大津.

Takakura, K.-I. and S. Fujii. 2010. Reproductive interference and salinity tolerance differentiate habitat use between two alien cockleburs: *Xanthium occidentale* and *X. italicum* (Compositae). *Plant Ecology* 206: 309-319.

Yoneda, T., S. Nishimura, S. Fujii and E. Mukhtar. 2009. Tree guild composition of a hill dipterocarp forest in West Sumatra, Indonesia. *TROPICS* 18: 143-154.

S. Nishimura, T. Yoneda, S. Fujii, E. Mukhtar and M. Kanzaki. 2008. Spatial patterns and habitat association of Fagaceae in a hill dipterocarp forest in Ulu Gadut, West Sumatra. *J. Tropical Ecology* 245: 535-550.

大阪市立自然史博物館・大阪自然史センター(編). 2008. 大阪市立自然史博物館叢書3 干潟を考える 干潟を遊ぶ. 東海大学出版会(分担執筆).

西野麻知子・細谷和海・藤田朝彦・大野朋子・前中久行・藤井伸二・金子有子・前迫ゆり・神谷要. 2008. 流域の地域特性に基づく生物多様性保全手法の構築—平成18年度の成果—. 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター試験研究報告書 3: 134-178.

Yoneda, T., H. Mizunaga, S. Nishimura, S. Fujii, E. Mukhtar, M. Hotta and K. Ogino. 2006. Impacts of recent dry weather on a tropical rain forest in Sumatra with special reference to stand dynamics during the last two decades. *TROPICS* 15(2): 177-187.

Yoneda, T., H. Mizunaga, S. Nishimura, S. Fujii and R. Tamin. 2006. Stand structure and dynamics of a tropical secondary forest—a rural forest in West Sumatra, Indonesia—. *TROPICS* 15(2): 189-199.

Nishimura, S., T. Yoneda, S. Fujii, E. Mukhtar, H. Abe, and M. Kanzaki. 2006. Factors influencing the floristic composition of a hill forest in West Sumatra. *TROPICS* 15(2): 165-175.

Nishimura, S., T. Yoneda, S. Fujii, E. Mukhtar, H. Abe, D. Kubota, R. Tamin and H. Watanabe. 2006. Altitudinal zonation of vegetation in the Padang region, West Sumatra, Indonesia. *TROPICS* 15(2): 137-152.

小山 栄・藤井伸二. 2006. 大阪府能勢町西部におけるため池の水生植物の現状(2004). *水草研究会誌* 84: 16-22.

吉野奈津子・藤井伸二・西田佐知子. 2005. 名古屋大学構内におけるエンシュウムヨウランの発見. *名古屋大学博物館報告*21: 141-146.

Shimizu, K., S. Fujii, K. Marhold, K. Watanabe and H. Kudoh. 2005. *Arabidopsis kamchatica* (Fisch. ex DC.) K. Shimizu & Kudoh and *A. kamchatica* subsp. *kawasakiana* (Makino) K. Shimizu & Kudoh, new combinations. *Acta Phytotax. Geobot.* 56: 163-172.

Shinji Fujii, Sen Nishimura and Tsuyoshi Yoneda. 2004. Elevational distribution of Fagaceae in West Sumatra. 平成12年度～平成15年度科学研究費補助金研究成果報告書「20年間における熱帯雨林の林分動態と気候変動に対する反応」6-12p. 鹿児島大学農学部.

			<p>小山栄・藤井伸二. 2004. ウチワゼニクサが能勢町で野生化. 近畿植物同好会会報93: 12-14.</p> <p>Yamaguchi, T., S. Fujii, M. N. Tamura, H. Nagamasu, N. Kato, H. Wada and A. Yamamoto. 2003. The specimens of Japanese plants collected by Ph. F. von Siebold, H. Burger and von Siebold's collaborators, and now housed in the National Herbarium of the Netherlands and Botanische Staatssammlung Munchen. Calanus Special Number 5: 191-576.</p> <p>梅本信也・藤井伸二. 2003. 水田秋植物 (Autumn paddy ephemeral) に関する一考察. 分類3: 47-51.</p> <p>富永明良・藤井伸二. 2000. 近畿地方におけるミツバコンロンソウの分布. 植物分類地理 51: 121-122.</p> <p>Yoneda, T., S. Fujii and S. Nishimura. 1998. "Storm impact on an equatorial rain forest in West Sumatra, Indonesia." Poonswad, P. ed. The Asian Hornbills: Ecology and Conservation. Thai Studies in Biodiversity 2: 161-201.</p> <p>宮脇成生・藤井伸二. 1997. 雌花ばかりのブタクサその3 オオブタクサの例から. Nature Study 43(2): 6.</p> <p>山本博子・藤井伸二. 1996. ボタンウキクサの種子越冬と発芽の記録. 水草研究会会報 59: 17-18.</p> <p>藤井俊夫・藤井伸二. 1996. オニグルミの発芽から開花結実までの成長期間に関する観察例. Nature Study 42(8): 7-8.</p> <p>西田富士夫・藤井伸二. 1996. 枚方市尊延寺における大阪府稀産植物の記録. Nature Study 42(7): 7.</p> <p>岡本素治・藤井伸二. 1993. 花の万博出展植物標本作成事業標本目録. 大阪市立自然史博物館.</p> <p>大阪府(編). 1989. 天野山の自然とその保全(一般国道(新)170号環境保全対策検討調査報告書). 大阪府土木事務所大阪府.(分担執筆)</p>
	確認された被引用論文(引用論文、件数など)		
	その他(5年以内)		藤井伸二. 2011. 自然へのアプローチー今, 若い研究者が取り組んでいることー14 生物と正面から向き合う. 関西自然保護機構会報 33:53-57.
	翻訳		
	教科書等		新しい植物分類学 I, 新しい植物分類学 II
	外部研究資金 獲得状況 (学術振興会特別研究員など)		科学研究費補助金基盤B(課題番号24310053, 24310168, 26281051), 福武学術文化振興財団第27回(平成23年度)歴史学・地理学助成金, 環境研究総合推進費(S9-2-2)
	学術に関する受賞歴		
	所属学会		日本植物分類学会, 日本植物学会, 日本植物地理分類学会, 日本植生史学会, 日本生態学会, 種生物学会
	社会的活動の状況		環境省希少野生動植物保全推進員, 環境省国内希少野生動植物種(維管束植物)の選定に関する意見交換会委員, 三重県文化財保護審議会委員, 豊橋市自然史博物館資料収集委員会委員, 三重県自然環境保全アドバイザー, 川上ダム自然環境保全技術指導員
	大学設置・学校法人審議会 科目担当審査経歴 (科目、年月)		
	担当科目		基礎生物学, 基礎生態学, 生物多様性, 植物形態学実習, 農業生態系, 文献講読, 演習
	教育に関する特別の業績		

教員業績データベース(公表)

データ最終更新日 2015年6月22日

氏名	藤井芳一			
専門	土壌生態学, 土壌生態毒性学, 環境リスク, 環境教育			
学位	環境学博士(横浜国立大学)			
学歴	2004年3月	人間環境大学人間環境学部 卒業		
	2004年4月	横浜国立大学大学院環境情報学府環境生命学専攻博士課程前期 入学		
	2006年3月	横浜国立大学大学院環境情報学府環境生命学専攻博士課程前期 修了		
	2006年4月	横浜国立大学大学院環境情報学府環境リスクマネジメント専攻博士課程後期 入学		
	2009年3月	横浜国立大学大学院環境情報学府環境リスクマネジメント専攻博士課程後期 単位取得退学		
	2009年9月	博士号(環境学)取得		
研究業績	博士學位論文		重金属汚染土壌の生態影響評価に向けた生物摂取可能性に基づく毒性変化の検討(2009年9月)	
	5年以内の学術論文		藤井芳一(2014)岡崎市内の高校・大学における体系的環境教育カリキュラムの提案. 地域活性化研究 13, 1-10. 金田哲・野崎真奈・藤井芳一(2012)農耕地における効率的なミミズ採取法の検討. Edaphologia 90, 25-30. 林岳彦・岩崎雄一・藤井芳一(2010)化学物質の生態リスク評価「その来歴と現在の課題」. 日本生態学会誌 60, 327-336.	
	著書 (学術)	単著		
		共著	S. Masunaga, M. Nakamura, H. Yoshikawa, M. Tamada, Y. Fujii, N. Kaneko (2008) Bioaccumulation of PCDD/DFs and dioxin-like PCBs in the soil food web of fallowrice fields in Japan. In: M. Morita (Ed.), Persistent organic pollutants (POPs) research in Asia. pp. 88-95.	
	著書 (その他)	単著	藤井芳一(2011)環境フィールドワーク事例集 [戦略的の大学連携事業に係る資料]	
		共著		
	学術論文	単著		
		ファースト オーサー		藤井芳一(2014)岡崎市内の高校・大学における体系的環境教育カリキュラムの提案. 地域活性化研究 13, 1-10. Y. Fujii, N. Kaneko (2009) The effect of earthworms on copper fractionation of freshly and long-term polluted soils. Ecotoxicology and Environmental Safety 72, 1754-1759.
			特別の役割	
		共著		金田哲・野崎真奈・藤井芳一(2012)農耕地における効率的なミミズ採取法の検討. Edaphologia 90, 25-30. 林岳彦・岩崎雄一・藤井芳一(2010)化学物質の生態リスク評価「その来歴と現在の課題」. 日本生態学会誌 60, 327-336. T. Nakamori, Y. Kubota, T. Ban-nai, Y. Fujii, S. Yoshida (2009) Effects of acute gamma irradiation on soil invertebrates in laboratory tests. Radioprotection 44, 421-424. R. Fujimaki, A. Kawasaki, Y. Fujii, N. Kaneko (2008) The influence of topography on the stream N concentration in the Tanzawa Mountains, Southern Kanto District, Japan. Journal of Forest Research 13, 380-385. M. Nakamura, H. Yoshikawa, M. Tamada, Y. Fujii, N. Kaneko, S. Masunaga (2007) Bioaccumulation of PCDD/DFs and dioxin-like PCBs in the soil food web of fallowrice fields in Japan. Organohalogen Compounds 69, 1452-1455.
			その他	

			M. Nakamura, H. Yoshikawa, M. Tamada, Y. Fujii, N. Kaneko, S. Masunaga (2006) The congener profiles of PCDD/DFs and dioxin-like PCBs in soil animals from Japanese fallow. Organohalogen Compounds 68, 2121-2124.
		確認された被引用論文 (引用論文、件数など)	
		その他	
		翻訳	
		教科書等	
	外部研究資金 獲得状況 (学術振興会特別研究員など)		2013年 岡崎市産学共同研究助成
	学術に関する受賞歴		2006年3月 日本生態学会大会ポスター発表優秀賞(生態系管理部門) 2013年9月 日本環境共生学会大会優秀発表賞
	所属学会		日本生態学会 日本土壌動物学会 日本土壌肥料学会 日本環境毒性学会
	社会的活動の状況		2011年 岡崎市の委託により環境教育センターとして「乙川水辺マップ」を作成した。 2014年4月～ あいち環境塾チューター
	大学設置・学校法人審議会 科目担当審査経歴 (科目、年月)		
	担当科目		大気・土・水の測定の基礎実習 環境リスク概論 農地での土と微生物と肥料のはたらきⅠ・Ⅱ 土作りと肥料 基礎分析化学実験 環境分析化学実験Ⅰ・Ⅱ 農業インターンシップ 環境コース演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
	教育に関する特別の業績		戦略的大学連携事業に係る「共同フィールドワーク」の実施調整や引率、TV講義科目の実施調整

教員業績データベース(公表)

データ最終更新日 2015年6月20日

氏名	守村敦郎			
専門	環境情報学、景観生態学			
学位	大阪府立大学博士(農学)			
学歴	1993年3月	千葉大学園芸学部環境緑地学科 卒業		
	1995年3月	千葉大学大学院園芸学研究科環境緑地学専攻修士課程 修了 学位取得:修士(園芸学)		
	1998年3月	大阪府立大学大学院農学研究科園芸農学専攻博士後期課程 修了 学位取得:博士(農学)		
	博士學位論文		『リモートセンシングを用いた中央アジア乾燥・半乾燥地域の広域植生動態の解析』	
	5年以内の学術論文		Youngkeun SONG, Junichi IMANISHI, Hiroshi HASHIMOTO, Atsuo MORIMURA, Yukihiro MORIMOTO (2011) Importance of the Green Spectral Region for Remote Assessment of Tree Vigor Condition: a Case Study of Cerasus Species, Journal of Environmental Information Science, 39(5), pp.87-96.	
			Youngkeun Song, Junichi Imanishi, Hiroshi Hashimoto, Atsuo Morimura, Yukihiro Morimoto, Katsunori Kitada (2013) Spectral Correction for the Effect of Crown Shape at the Single-Tree Level: An Approach Using a Lidar-Derived Digital Surface Model for Broad-Leaved Canopy, IEEE Transactions on Geoscience and Remote Sensing, 51(2), pp.755-764.	
			守村敦郎・中村彰宏 (2014) タブレット端末を用いた樹木管理に関する景観シミュレーションシステムの開発, ランドスケープ研究, 77(5), pp.521-524.	
	著書 (学術)	単著		
		共著	竹市明弘・小橋澄治・笠谷和比古 編 (1999) 21世紀の日本文化 日本の歴史・文化に新たな可能性を拓く—人間環境学シリーズ 第3巻, 勁草書房 (「景観文化論」の章を担当, 分担: pp.240-249)	
			日本緑化学会 編 (2005) 環境緑化の事典, 朝倉書店 (リモートセンシング技術による評価法」の章を担当, 分担: pp.434-436)	
			森本幸裕・小林達明 編著 (2007) 最新 環境緑化工学, 朝倉書店 (「リモートセンシング」の章を担当, 分担: pp.104-110)	
			森本幸裕 編著 (2013) 景観の生態史観—攪乱が再生する豊かな大地, 京都通信社 (「イリ川のデルタ湿地帯は、なぜ塩害を免れているのか」の章を担当, 分担: pp.62-65)	
	著書 (その他)	単著		
共著				
	単著		守村敦郎 (2006) 「おかげさ自然体験の森」地区にみる土地利用の変遷, 人間環境大学人間環境学部紀要『藝』, 3, pp.17-28.	
			守村敦郎 (2008) 景観指数による緑被の分布特性の評価, 人間環境大学人間環境学部紀要『藝』, 5, pp.29-41.	
	ファースト オーサー			守村敦郎・森本幸裕 (1997) NOAA/AVHRR データを用いた中央アジア乾燥・半乾燥地植生の季節変動の解析, 環境情報科学論文集, 11, pp.171-176.
				Atsuo Morimura, Yukihiro Morimoto (1998) Understanding current status of vegetation of deltas in Middle Asia using NOAA/AVHRR images, Proceedings of The International Workshop on “Sustainable use of natural resources of Central Asia”, Almaty, Kazakhstan, pp.146-150.
				守村敦郎・森本幸裕・間野かづき・小林達明 (1998) NOAA LAC データによるイリ川デルタ植生の定量的評価, 日本緑化学会誌, 24(1), pp.30-40.
				守村敦郎・森本幸裕・徐英大 (2003) 半自然景観のフラクタル性に関する研究, 人間環境大学人間環境学部紀要『藝』, 1, pp. 90-98.
				守村敦郎・堀川真弘・森本幸裕・石田紀郎 (2003) CORONA衛星写真によるシルダリア川デルタ湿地帯の植生変化の推定, 国際生態学会日本支部会報, 8(1), pp.11-14.
		守村敦郎・堀川真弘・森本幸裕・秋山知宏 (2009) 多時期MODISデータによるイリ川デルタ植生の変動解析, 人間環境大学人間環境学部紀要『藝』, 6, pp.61-70.		

研究 業績	学術論文	共著	守村敦郎・中村彰宏 (2014) タブレット端末を用いた樹木管理に関する景観シミュレーションシステムの開発, ランドスケープ研究, 77(5), pp.521-524.
			特別の役割
			Tatsuaki Kobayashi, Atsuo Morimura, Sayat Temirbekov, Yukihiro Morimoto (1995) Ecofunctional Analysis of Dryland Vegetation: Structure, Mechanism and their Changes, Proceedings of the Symp. on Aral Sea and the surrounding region : Irrigated Agriculture and Environment : 28 and 29 March, Otsu, Japan., pp.79-91.
			森本幸裕・守村敦郎・小林達明・N.オガリ (1996) 中央アジア乾燥地域の沙漠開発と植生変動, 農業土木学会誌, 64(10), pp.1013-1016.
			Yukihiro Morimoto, Atsuo Morimura, Natalia Ogar (1997) Several Landscape Ecological Concepts on the Aral Sea Crisis Revealed by Remote Sensing, Proceedings of The International Symposium on "The Role of Remote Sensing for The Environmental Issues in Aral Sea and Semi-Arid Regions" 29-31 January, Center for Environmental Remote Sensing, Chiba University, Japan, pp.65-70.
			森本幸裕・守村敦郎 (1997) アラル海危機と植生変動の景観生態学的考察, 日本緑化工学会誌, 22(3), pp.181-189.
			Yukihiro Morimoto, Atsuo Morimura (1998) A conceptual study for nature preservation and restoration of the Aral Sea Basin through assessment of vegetation dynamics, Proceedings of The International Workshop on "Sustainable use of natural resources of Central Asia", Almaty, Kazakhstan, pp.141-145.
			徐英大・森本幸裕・守村敦郎 (1998) フラクタルを用いた日本庭園のエキスパートCADシステムに関する研究, 環境情報科学論文集, 12, pp.137-142.
			森本幸裕・守村敦郎 (1999) 解説シリーズ「乾燥地の灌漑農業と水環境」乾燥地の生態系と大規模灌漑農業 — アラル海危機のランドスケープ・エコロジー —, 水文・水資源学会誌, 12(2), pp.168-176.
			堀川真弘・守村敦郎・前中久行・森本幸裕・石田紀郎 (2004) シルダリア下流域における植物群落の類型化および分光反射率による植生の定量的評価の検討, 日本緑化工学会誌, 30(1), pp.68-73.
			Yukihiro MORIMOTO, Yoshihiro NATUHARA, Atsuo MORIMURA, Masahiro HORIKAWA (2005) The pelican scenario for nature restoration of Aral Sea wetland ecosystems, Landscape and Ecological Engineering, 1(1), pp.85-92.
			堀川真弘・津山幾太郎・大藪崇司・守村敦郎・森本幸裕 (2010) 衛星画像を用いたアラル海・シルダリア下流域の湿地帯変遷とダム建設後の修復状況の評価, 環境情報科学論文集, 24, pp.25-30.
			Youngkeun SONG, Junichi IMANISHI, Hiroshi HASHIMOTO, Atsuo MORIMURA, Yukihiro MORIMOTO (2011) Importance of the Green Spectral Region for Remote Assessment of Tree Vigor Condition: a Case Study of Cerasus Species, Journal of Environmental Information Science, 39(5), pp.87-96.
			Youngkeun Song, Junichi Imanishi, Hiroshi Hashimoto, Atsuo Morimura, Yukihiro Morimoto, Katsunori Kitada (2013) Spectral Correction for the Effect of Crown Shape at the Single-Tree Level: An Approach Using a Lidar-Derived Digital Surface Model for Broad-Leaved Canopy, IEEE Transactions on Geoscience and Remote Sensing, 51(2), pp.755-764.
			確認された被引用論文 (引用論文、件数など)
中央アジア乾燥地域の沙漠開発と植生変動、3件			
アラル海危機と植生変動の景観生態学的考察、3件			
Understanding current status of vegetation of deltas in Middle Asia using NOAA/AVHRR images、2件			
NOAA LACデータによるイリ川デルタ植生の定量的評価、3件			
フラクタルを用いた日本庭園のエキスパートCADシステムに関する研究、3件			

		The pelican scenario for nature restoration of Aral Sea wetland ecosystems、1件
		Importance of the Green Spectral Region for Remote Assessment of Tree Vigor Condition: a Case Study of Cerasus Species、1件
	その他	守村敦郎・森本幸裕・ナタリア オガリ・小林達明 (1994) イリ川流域のSPOTデータ解析結果, 日本カザフ研究会調査報告書, 2, pp.15-24.
		森本幸裕・N.P. オガリ・小林達明・守村敦郎・川原洋・間野かづき (1995) 中央アジアの植生変動に及ぼす人為的影響とモニタリング, 日本カザフ研究会調査報告書, 3, pp.67-81.
		守村敦郎・森本幸裕・小林達明・鈴木玲司・藤岡和佳・間野かづき (1995) イリ川流域広域植生調査, 日本カザフ研究会調査報告書, 3, pp.83-96.
		森本幸裕・守村敦郎・小林達明・ナタリア オガリ (1996) 中央アジア乾燥地域の沙漠開発と植生変動, 日本カザフ研究会調査報告書, 4, pp.39-47.
		守村敦郎・森本幸裕・ナタリア オガリ (1996) アラル海流域植生調査, 日本カザフ研究会調査報告書, 4, pp.49-63.
		榎本剛浩・守村敦郎・森本幸裕 (1997) 中央アジア大規模灌漑地における樹木の年輪成長について, 日本カザフ研究会調査報告書, 5, pp.51-61.
		守村敦郎 (2004) 林相と土地利用の変遷, おかざき自然体験の森 自然環境基礎調査報告書 (平成15年度), pp.228-235.
		守村敦郎 (2006) おかざき自然体験の森の景観, おかざき自然体験の森 自然環境基礎調査報告書 (平成17年度), pp.286-293.
		堀川真弘・津山幾太郎・守村敦郎・夏原由博・森本幸裕 (2009) イリ川流域における湿地植生の変動把握に向けた地理情報システムの構築と分布規定要因の推定, 総合地球環境学研究所 オアシス地域研究会報, 8(1), pp.60-68.
		守村敦郎・堀川真弘・森本幸裕・秋山知宏 (2010) イリ川デルタ植生の動態とその要因, 総合地球環境学研究所 オアシス地域研究会報, 9(1), pp.107-112.
	翻訳	
	教科書等	
	外部研究資金 獲得状況 (学術振興会特別研究員など)	総合地球環境学研究所 研究分担金 (民族/国家の交錯と生業変化を軸とした環境史の解明—中央ユーラシア半乾燥域の変遷(R-03)) 2008-2010年度
		公益財団法人新技術開発財団 植物研究助成 研究分担金 (植物研究園における樹木の成長特性を考慮した景観シミュレーション) 2011-2012年度
		一般財団法人大阪スポーツみどり財団 委託業務 (長居植物園のGIS化) 2013年度
		科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究 課題番号26660285 (位置情報技術を用いた効果的な屋外展示方法の開発) 研究代表者 2014-2015年度
		科学研究費補助金 基盤研究(C) 課題番号15K07831 (3D・GISデータとタブレット端末を用いた植物管理・環境教育システムの開発) 研究分担者 2015-2017年度
	学術に関する受賞歴	
	所属学会	日本緑化工学会
		日本造園学会
		情報処理学会
		日本写真測量学会
		園芸学会
	環境情報科学センター	
	社会的活動の状況	おかざき自然体験の森自然環境基礎調査会 委員 (2003年4月-2006年3月)
		岡崎市環境審議会 委員 (2008年7月-2012年11月)
		東三河農林水産事務所海岸林整備基本調査アドバイザー会議 委員 (2010年9月-2011年3月)
		日本緑化工学会 評議員 (2010年10月-2014年9月)
		日本緑化工学会 編集委員 (2009年10月-2013年9月)

	日本緑化工学会 大会特集号編集委員(2005年9月-2009年9月、2013年10月-)
大学設置・学校法人審議会 科目担当審査経歴 (科目、年月)	人間環境大学人間環境学部人間環境学科 助教授「景観文化論講義」「景観文化論特殊講義I(植生変動の景観生態学)」「景観文化論特殊講義II(景観の保全と計画)」「景観文化論演習及び実習I」「景観文化論演習及び実習II」「景観文化論プロゼミナール」「コンピュータグラフィックス(1)」「コンピュータグラフィックス(2)」「卒業論文」資格ありと判定、1999年8月 人間環境大学大学院人間環境学研究科人間環境専攻(修士課程)助教授(専任)「環境リスク管理基礎実習」M合の資格ありと判定、2002年8月
担当科目	自然地理学 野菜と穀物の育て方 環境情報処理I・II 大気・土・水の測定の基礎実習 農地の保全と管理 環境保全型農業実習I・II 環境コース演習I・II・III・IV 環境リスク管理特論(大学院) 環境リスク管理演習及び実習(大学院) 環境リスク管理基礎実習(大学院)
教育に関する特別の業績	

教員業績データベース(公表)

データ最終更新日 2015年6月29日

氏名	藪谷あや子			
専門	財政学、環境経済学、地域経済論			
学位	京都大学博士(経済学)			
学歴	1973年3月	京都大学経済学部経済学科卒業		
	1991年4月	京都大学経済学研究科修士課程(現代経済学専攻)入学		
	1993年4月	同上博士課程(同上専攻)進学		
	1996年3月	同上課程研究指導認定		
研究業績	博士学位論文		「環境資源管理システムの変容過程に関する基礎的研究—コモンズ論を通してみた共有的資源管理の歴史と理論」	
	5年以内の学術論文		「転機に立つ西三河自動車産業集積地—グローバル立地調整下での産業集積地の構造変容」	
			「自動車産業集積地：西三河の姿を描く～自立的・自律的な地域発展をめざして」	
			「十名直喜著；ひと・まち・ものづくりの経済学—現代産業論の新地平—について」	
			矢吹雄平著；地域マーケティング論—地域経営の新地平—について」	
	著書 (学術)	単著		
		共著	「転機に立つ西三河自動車産業集積地—グローバル立地調整下での産業集積地の構造変容」,山田明・梅原幸次郎編『大都市圏の構造変化—東海からの発信』2013年、自治体研究社、pp.72-84	
	著書 (その他)	単著		
		共著		
	学術論文	単著		「自動車産業集積地：西三河の姿を描く～自立的・自律的な地域発展をめざして」調査月報 No.516～No.521, 岡崎信用金庫(2012年～2013年掲載のシリーズ論文集)
				(書評論文)「矢吹雄平著；地域マーケティング論—地域経営の新地平—について」(2012年)地域経済学研究第23号, 日本地域経済学会, pp.95-102
				(書評論文)「十名直喜著；ひと・まち・ものづくりの経済学—現代産業論の新地平—について」(2013年)財政と公共政策第35巻第1号, 財政学研究会, pp.105-114
		共著	ファーストオーサー	
			特別の役割	
			その他	
	確認された被引用論文			

	(引用論文、件数など)	
	その他	
	翻訳	
	教科書等	
外部研究資金 獲得状況 (学術振興会特別研究員など)		
学術に関する受賞歴		
所属学会	日本地域経済学会	
	現代財政研究会	
社会的活動の状況		岡崎市委員(入札監視委員会、建築審査会、指定管理者第三者評価委員会)、吹田市自治都市研究所主任研究員
大学設置・学校法人審議会 科目担当審査経歴 (科目、年月)		平成11年8月認定;地域経済論講義、特殊講義Ⅰ(地域資源管理論)、 特殊講義Ⅱ(公共経済学)、演習Ⅰ・Ⅱ、プロゼミナール、卒業論文 平 成14年4月追加認定;社会システム論特殊講義
担当科目		経営学概論、財政学Ⅰ・Ⅱ、地域経済論、自動車産業論、経営学英語文 献購読Ⅰ、経営コース演習Ⅰ～Ⅳ、人間環境学共同演習(大学院)
教育に関する特別の業績		

教員業績データベース(公表)

データ最終更新日2015年6月22日

氏名	山根卓二		
専門	経済学史、環境経済学		
学位	博士(経済学)		
学歴	平成7年3月	広島大学経済学部経済学科卒業	
	平成7年4月	広島大学大学院社会科学研究科経済学専攻修士課程入学	
	平成9年3月	広島大学大学院社会科学研究科経済学専攻修士課程修了	
	平成9年4月	京都大学大学院経済学研究科経済動態分析専攻博士課程入学	
	平成13年3月	京都大学大学院経済学研究科経済動態分析専攻博士課程修了	
研究業績	博士學位論文		2000.「環境認識と経済理論」
	5年以内の学術論文		2010.「ウィリアム・カップの科学統合論と累積的因果関係論」『経済学史研究』52(1),50-66. 2012.「ウィリアム・カップの社会的価値の理論と「最小許容限度」」『経済学史研究』54(1),43-60. 2014.「ウィリアム・カップによる外部性の二分法批判：複合的な社会的費用の社会的評価へ向けて」『人間と環境』(5), 45-62.
	著書 (学術)	単著	なし
		共著	2003.「環境経済学の理念」, 竹市明弘・植田和弘・片山幸士編『人間環境学シリーズ第1巻 人間環境の創造—持続可能な文明のために—第2版』勁草書房,119-129.
	著書 (その他)	単著	なし
		共著	なし
	学術論文	単著	2000.「環境経済学と価値・規範」『財政学研究』26,49-60.
			2000.「倫理的行動の正当化—機械論の人間像からの脱却—」『京大経済論叢』166(2),67-80.
			2000.「環境と科学・経済学」『財政学研究』27,44-57.
			2001.「K.W.カップの社会的費用論—その認識論的側面—」『京大経済論叢』167(1),93-108.
			2001.「環境評価におけるコミュニケーションの重要性」『京大経済論叢』167(2),40-56.
			2002.「生活の経済合理化と経済学—J.S.ミルの文明論および教育論を手がかりに—」『人間環境論集』2, 51-62.
			2009.「ウィリアム・カップの科学統合論と実質的合理性—社会的費用論の人間科学的再構成—」『経済学史研究』50(2),21-37.
			2010.「ウィリアム・カップの科学統合論と累積的因果関係論」『経済学史研究』52(1),50-66.
			2012.「ウィリアム・カップの社会的価値の理論と「最小許容限度」」『経済学史研究』54(1),43-60.
2014.「ウィリアム・カップによる外部性の二分法批判：複合的な社会的費用の社会的評価へ向けて」『人間と環境』5, 45-62.			
共著	ファーストオーサー		
	特別の役割		
	その他		
確認された被引用論文 (引用論文の件数)		2009.「ウィリアム・カップの科学統合論と実質的合理性—『社会的費用論』の人間科学的再構成」(西林勝吾, 2013.「A.V.クネーゼの水質管理論にみる環境経済理論」『経済学史研究』55(1):53-74. 西林勝吾,2014.「A.V.クネーゼの物質収支アプローチ：K.W.カップの社会的費用論との比較を通じた再検討」『立教経済学研究』67:103-128. 大森正之,2014.「記者あとがき: K.W.カップ研究と制度派経済学の現在」カール・ウィリアム・カップ『制度派経済学の基礎』人間の科学新社.301-305.)	

	(引用論文、件数など)	2010.「ウィリアム・カッパの科学統合論と累積的因果関係論」 (西林勝吾.2014.「A.V.クネーゼの物質収支アプローチ：K.W.カッパの社会的費用論との比較を通じた再検討」『立教経済学研究』67:103-128.)
		2012.「ウィリアム・カッパの社会的価値の理論と「最小許容限度」」 (西林勝吾.2013.「A.V.クネーゼの水質管理論にみる環境経済理論」『経済学史研究』55(1):53-74. 西林勝吾.2014.「A.V.クネーゼの物質収支アプローチ：K.W.カッパの社会的費用論との比較を通じた再検討」『立教経済学研究』67:103-128.)
	その他	
	翻訳 教科書等	
外部研究資金 獲得状況 (学術振興会特別研究員など)		
学術に関する受賞歴		2010年5月 経済学史学会第7回研究奨励賞『経済学史研究』論文賞
所属学会		経済学史学会 進化経済学会 環境経済・政策学会
社会的活動の状況		
大学設置・学校法人審議会 科目担当審査経歴 (科目、年月)		
担当科目		経営学文献講読I・II 経営学英語文献講読II 経営コース演習I・II・III・IV 現代社会と経済 ミクロ経済学I・II マクロ経済学I・II 日本経済と金融 インターンシップ 環境経済学特論
教育に関する特別の業績		なし

教員業績データベース(公表)

データ最終更新日 2015年6月30日

氏名	吉田喜久子		
専門	宗教哲学、比較日本思想論、比較日本文化論		
学位	京都大学博士(文学)		
学歴	1976年3月	京都大学文学部卒業(哲学科宗教学専攻)	
	1977年4月	京都大学文学部大学院修士課程入学(哲学科宗教学専攻)	
	1979年3月	京都大学文学部大学院修士課程修了(哲学科宗教学専攻)	
	1979年4月	京都大学文学部大学院博士課程入学(哲学科宗教学専攻)	
	1982年3月	京都大学文学部大学院博士課程修了(哲学科宗教学専攻)	
	1982年4月 ~9月	京都大学文学部研修員	
1982年10月 ~1986年3月	DAAD(ドイツ学術交流会)奨学生として(旧)西ドイツミュンヘン大学哲学科留学		
	博士学位論文		『直接経験と言語的場—宗教と詩の源泉—』
	5年以内の学術論文		著書(共著)H.R.Yousefi u.H.Seubert(Hrsg.)“Toleranz im Weltkontext”(Wiesbaden 2013)執筆担当S.137-143
			(共著)H.R.Yousefi(Hrsg.)“Menschenrecht im Weltkontext”(Wiesbaden 2013), 執筆担当S.109-115
			(共著)H.R.Yousefi u.H.Seubert(Hrsg.)“Ethik im Kontext”(Wiesbaden 2014), 執筆担当S.141-148
			学術論文(単著)「科学技術文明と日本人の自然観」人間環境大学人間環境学部紀要『人間と環境』2(2011)143-162
			(単著)「自然に帰する」環境と健康編集委員会編『環境と健康』Vol.24(1)(共和書院 2011)20-29
			(単著)「場の宗教性における倫理という問題」人間環境大学人間環境学部紀要『人間と環境』5(2014)65-80
	著書 (学術)	単著	学術論文(単著)「科学技術文明と日本人の自然観」人間環境大学人間環境学部紀要『人間と環境』2(2011)143-162
			(単著)「自然に帰する」環境と健康編集委員会編『環境と健康』Vol.24(1)(共和書院 2011)20-29
			(単著)「場の宗教性における倫理という問題」人間環境大学人間環境学部紀要『人間と環境』5(2014)65-80
		共著	(共著)竹市明弘・小橋澄治・笠谷和比古編『人間環境学シリーズ第3巻 日本文化の21世紀』(勁草書房 1999) 執筆担当 27-39、157-166
			(共著)長谷正當、細谷昌志編『宗教の根源性と現代』第II巻(晃洋書房 2001) 執筆担当165-189
			(共著)H.Eisenhofer-Halim(Hrsg.)“Wandel zwischen den Welten Festschrift für Johannes Laube”(Frankfurt a.M 2003), 執筆担当 S.837-853
	著書 (その他)	単著	(共著)H.R.Yousefi u.H.Seubert(Hrsg.)“Toleranz im Weltkontext”(Wiesbaden 2013), 執筆担当 S.137-143
			(共著)H.R.Yousefi(Hrsg.)“Menschenrecht im Weltkontext”(Wiesbaden 2013),S.109-115
		共著	(共著)H.R.Yousefi u.H.Seubert(Hrsg.)“Ethik im Kontext”(Wiesbaden 2014), 執筆担当S.141-148
			ルトのアナログ論をめぐって—」日本宗教学会編『宗教研究』266号(1985)79~106
			(単著)「新プラトン主義と中世ドイツ神秘思想に於ける『一』の問題」京都宗教学会編『宗教哲学研究』第5号(1988)60~77
			(単著)“Das «Fließende Licht der Gottheit» Mechthilds von Magdeburg”東洋大学『紀要』教養課程編第27号(1988)119~135
			(単著)「キリストのmysteriumから三一性のmysteriumへ」法政大学教養部『紀要』第70号人文科学編(1989)93~112

研究 業績	学術論文	単著	(単著)「マイスター・エックハルトに於ける受肉のmysterium」京都哲学会編『哲学研究』第556号(1990)335~382
			(単著)「マイスター・エックハルトに於ける神の一性と三一性の問題」法政大学教養部『紀要』第74号人文科学編(1990)45~67
			(単著)「キリスト教神秘思想に於ける三一性の問題—新プラトン主義的一性とキリスト教的三一性の問題をめぐって—」比較思想学会編『比較思想研究』第16号(1990)140~150
			(単著)「言葉(一)」法政大学教養部『紀要』第82号人文科学編(1992)75~92
			(単著)「科学技術、経験、言葉—ハイデッガーの技術論を手掛かりとして—」法政大学教養部『紀要』第93号人文科学編(1995)77~96
			(単著)「経験の自覚と言葉—西田哲学的立場よりなされるベルクソン批判再考を通して—」法政大学教養部『紀要』第96号人文科学編(1996)113~131
			(単著)「宗教の『出で来る所』—直接経験と言葉—」京都宗教哲学会編『宗教哲学研究』第13号(1996)39~58
			(単著)「实在の自覚としての言葉の創造的表現性—ベルクソンに於ける哲学の『厳密性』と本居宣長に於ける「歌の事」、「道の事」—」日本宗教学会編『宗教研究』316号(1998)79~106
			(単著)「歴史と伝統(前編)」人間環境大学歴史文化環境専攻紀要『藝』第1号(2003)11~26
			(単著)「歴史と伝統(後編)」人間環境大学歴史文化環境専攻紀要『藝』第2号(2005)1~18
			(単著)「上田閑照氏の思想『マイスター・エックハルトと禅』へのレスポンス」東西宗教交流学会編『東西宗教研究』第4号(2005)29~42
			(単著)「経験、言葉、自覚、いのち、…」東西宗教交流学会編『東西宗教研究』第4号(2005)145~165
			(単著)「『いのちの敬虔』の思想における宗教性とその場の性格」人間環境大学歴史文化環境専攻紀要『藝』第3号(2006)1~16
			(単著)「日本文化と近代化という問題」人間環境大学歴史文化環境専攻編『人間環境大学 歴史・文化環境専攻分野講義録』(人間環境大学 2006)1~47
			(単著)「神道の死生観をめぐって—『古事記』の死後観は心情的ニヒリズムか—」人間環境大学歴史文化環境専攻紀要『藝』第4号(2007)17~28
			(単著)「日本文化における自然信仰の問題」人間環境大学歴史文化環境専攻紀要『藝』第6号(2009)14~35
			(単著)「科学技術文明と日本人の自然観」人間環境大学人間環境学部紀要『人間と環境』2(2011)143~162
			(単著)「自然に帰する」環境と健康編集委員会編『環境と健康』Vol.24(1)(共和書院 2011)20~29
			(単著)「場的宗教性における倫理という問題」人間環境大学人間環境学部紀要『人間と環境』5(2014)65~80
特別の役 割			
その他			
確認された被引用論文 (引用論文、件数など)			
その他		星野、池上、気多、島藺、鶴岡編『宗教学事典』(丸善 2010)の「自然崇拜」の項目担当執筆	
翻訳		「キリスト教神秘主義に於ける自証—エックハルトのドイツ語説教集の中の『私』—」(Sh.Ueda“Meister Eckhart Predigten. Ihre “Wahrheit“ und ihre geschichtliche Situation”(in “Abendländische Mystik im Mittelalter”(Stuttgart 1986))『哲学』9号(哲学書房 1989)	
教科書等			

外部研究資金 獲得状況 (学術振興会特別研究員など)	
学術に関する受賞歴	平成3年度「比較思想学会研究奨励賞」受賞(1991)
所属学会	京都哲学会、宗教哲学会、日本宗教学会、比較思想学会、神道国際学会、中世哲学会、東西宗教交流学会、Meister-Eckhart-Gesellschaft
社会的活動の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成13年 人間環境大学主催「人間環境大学市民講座」(於・人間環境大学)で「『無垢の思想家』小林秀雄生誕百年」と題して講義</li> <li>・平成17年7月7日 名古屋市教育委員会主催「大学連携講座」(於・名古屋市生涯学習推進センター)で「日本文化と近代化という問題」と題して講義</li> <li>・平成22年2月24日 岡崎ロータリークラブ主催「岡崎ロータリークラブ会」(於・岡崎出雲殿)で「小林秀雄の宗教観と白洲正子の日本文化論」と題して講義</li> <li>・平成22年7月31日 主催・(財)体質研究会／(財)慢性疾患・リハビリテーション研究振興財団／人間環境大学、後援・中日新聞による市民公開講座「第17回いのちの科学フォーラム」(於・人間環境大学)、「心と身はひとつ 心身医学・臨床心理学と東洋医学」講座(1)「統合医療の可能性－西洋医学と東洋医学」で、「自然に帰する」と題して講義</li> <li>・平成23年7月30日 主催・岡崎市／愛知学泉大学／愛知学泉短期大学／岡崎女子大学／人間環境大学「岡崎市民カレッジ 大学解放講座」(於・岡崎市図書館交流プラザ・りぶら)で「現代文明と日本人の自然観」と題して講義 等</li> </ul> <p>日本宗教学会評議員、伊勢神宮崇敬会正会員、京都大学基金サポート会員等</p>
大学設置・学校法人審議会 科目担当審査経歴 (科目、年月)	<p>学部担当(比較日本文化論、ドイツ語、1999年)</p> <p>大学院担当〇合(比較日本文化論、2002年)</p>
担当科目	比較日本文化論
教育に関する特別の業績	

教員業績データベース(公表)

データ最終更新日 2015年6月23日

氏名	吉武 久美			
専門	社会心理学			
学位	博士(心理学)			
学歴	2008年4月	名古屋大学大学院 教育発達科学研究科 博士前期課程 進学		
	2010年3月	名古屋大学大学院 教育発達科学研究科 博士前期課程 修了		
	2010年4月	名古屋大学大学院 教育発達科学研究科 博士後期課程 進学		
	2013年3月	名古屋大学大学院 教育発達科学研究科 博士後期課程所定単位修得後退学		
研究業績	博士學位論文		合意性推定に関する研究—社会的評価を受けやすい行動に着目して—	
	5年以内の学術論文		社会的迷惑行為と向社会的行動における合意性推定, 吉武久美・吉田俊和, 2011, 応用心理学研究, 37, 1-10. False Consensus Estimation On Social Behavior—focus on individual importance—, 吉武久美・吉田俊和, 2012, 応用心理学研究, 38(Special Edition), 129-131. ドライバーの交通ルールやマナーに対する意識が合意性推定に及ぼす影響, 吉武久美, 2013, 東海心理学研究, 7, 32-39. 合意性推定に関する研究—社会的評価を受けやすい行動に着目して—, 吉武久美, 2015, 名古屋大学大学院教育発達科学研究科	
	著書 (学術)	単著		
		共著		
	著書 (その他)	単著		
		共著		
	学術論文	単著		ドライバーの交通ルールやマナーに対する意識が合意性推定に及ぼす影響, 吉武久美, 2013, 東海心理学研究, 7, 32-39. 常習的交通違反者の「合意性推定の誤り」現象に関する研究, 吉武久美, 2011, 財団法人社会安全研究財団最終報告書
		ファースト オーサー		社会的迷惑行為と向社会的行動における合意性推定, 吉武久美・吉田俊和, 2011, 応用心理学研究, 37, 1-10. False Consensus Estimation On Social Behavior—focus on individual importance—, 吉武久美・吉田俊和, 2012, 応用心理学研究, 38(Special Edition), 129-131. 高校生を対象とした臨床心理学の授業 —「心の減災」を学び, 伝える—, 吉武久美・平島太郎・窪田由紀・松本真理子・森田美弥子, 2013, 中等教育研究センター紀要, 13, 3-14.
			特別の役割	
				児童生徒を対象とした心の減災能力育成に関する研究: 現状調査とプログラム開発を中心に, 松本真理子・窪田由紀・吉武久美・坪井裕子・鈴木美樹江・森田美弥子, 2014, 東海心理学研究, 8, 2-11. ネット上のトラブルや「いじめ」に関する報告, 三島浩路・黒川雅幸・大西彩子・本庄勝・吉武久美・長谷川輝之・長谷川亨・吉田俊和, 2010, 名古屋大学教育発達科学研究科紀要, 57, 61-69. 高校生の携帯電話によるネット利用の実態—ウェブサイト, ウェブログ, マイリンクを中心に—, 黒川雅幸・三島浩路・大西彩子・本庄勝・吉武久美・田上敦士・長谷川亨・吉田俊和, 2012, 電子情報通信学会技術研究報告 信学技報 111(393), 51-56.

	共著	<p>高等学校における携帯電話の規制に関する調査, 三島浩路・黒川雅幸・大西彩子・本庄勝・吉武久美・田上敦士・長谷川亨・吉田俊和, 2013, 現代教育学研究紀要, 6, 23-28.</p> <p>高校生の携帯電話によるネット利用と適応感との関連, 黒川雅幸, 三島浩路, 本庄勝, 吉武久美, 中村海, 橋本真幸, 長谷川亨, 吉田俊和, 2013, 電子情報通信学会技術研究報告信学技報, 112(412), 107-112.</p> <p>高校生におけるネット上の関係と友人関係適応との関連, 黒川雅幸・三島浩路・大西彩子・本庄勝・吉武久美・中村海・橋本真幸・長谷川亨・吉田俊和, 2013, 教育心理学フォーラム・レポート, 61(4).</p> <p>学校適応と中学生の携帯電話依存, 三島浩路・黒川雅幸・大西彩子・本庄勝・橋本真幸・伊藤篤・田上敦士・吉武久美・吉田俊和, 2014, 電子情報通信学会技術研究報告信学技報, 113(426), 89-93.</p> <p>学校のいじめとネット上の対人関係との関連, 大西彩子・本庄勝・吉武久美・三島浩路・黒川雅幸・吉田俊和, 2014, 応用心理学研究, 40, 54-55.</p> <p>高校生におけるネット上の関係と友人関係適応感との関連, 黒川雅幸・三島浩路・大西彩子・本庄勝・吉武久美・吉田俊和, 2015, 東海心理学研究, 9, 11-19.</p> <p>大学新入生の友人関係におけるFTFおよびSNSコミュニケーション, 黒川雅幸・吉武久美・中山真・三島浩路・大西彩子・吉田俊和, 2015, 対人社会心理学研究, 15, 55-62.</p>
	その他	
	確認された被引用論文 (引用論文、件数など)	
	その他	
	翻訳	
	教科書等	
外部研究資金 獲得状況 (学術振興会特別研究員など)		2011 年度 財団法人社会安全研究財団 若手研究助成 (研究代表者)
学術に関する受賞歴		
所属学会		<p>日本社会心理学会</p> <p>日本教育心理学会</p> <p>日本グループ・ダイナミックス学会</p> <p>日本応用心理学会</p> <p>東海心理学会</p>
社会的活動の状況		
大学設置・学校法人審議会 科目担当審査経歴 (科目、年月)		
担当科目		<p>心理学概論 I</p> <p>心理学研究法 I</p> <p>社会心理学</p> <p>学習心理学</p> <p>心理学基礎実習 I・II</p> <p>心理コース演習 I・II</p> <p>心理統計法 I・II・III</p> <p>心理学データ解析 I・II</p> <p>学習心理学特論</p> <p>心理学研究法特論</p>
教育に関する特別の業績		

教員業績データベース(公表)

データ最終更新日 2015年6月29日

氏名	吉野敏行		
専門	環境経済学 環境システム学		
学位	東京大学博士(環境学)		
学歴	1977年4月	埼玉大学経済学部経済学科卒業	
	1993年4月	埼玉大学大学院経済科学研究科修士課程入学	
	1995年3月	埼玉大学大学院経済科学研究科修士課程修了 学位取得:修士(経済学)	
	2006年4月	東京大学大学院新領域創成科学研究科博士課程入学	
	2009年3月	東京大学大学院新領域創成科学研究科博士課程修了 学位取得:博士(環境学)	
	博士學位論文		『循環型社会形成と物質循環の国際化—循環資源の国内循環と国際循環の最適化のための制度研究—』
	5年以内の学術論文		『拡大輸出者責任の数理計算について』(『人間環境論集』第9号、人間環境大学、2010年)
			『日本の公害防止設備投資と汚染濃度との相関分析から見た中国の現段階—アジア途上国に対する公害防止支援の意義—』(『人間と環境』(電子版)3、人間環境大学、2012年)
			『循環型社会のエネルギー』(『人間と環境』3、人間環境大学、2012年)
			『人間環境の構造について』(『人間と環境』5、人間環境大学、2014年)
	著書 (学術)	単著	『資源循環型社会の経済理論』(東海大学出版会、1996年)
		共著	『人間環境シリーズ第1巻「人間環境の創造—持続可能な文明のために—」』(勁草書房、1999年)
			『循環型社会の公共政策』(中央経済社、2002年)
	著書 (その他)	共著	『ごみの百科事典』(丸善、2003年)
			『最新ごみ事情Q&A—ごみ行政マンへの100の質問—』(東海大学出版会、1998年)
			『身近なリユース・リサイクル』(監修:吉野敏行、著者:山田次郎、一橋出版、2002年)
			『エコライフ宣言』(監修:吉野敏行、著者:土井明弘、一橋出版、2002年)
			『エコ住宅』(監修:吉野敏行、著者:高橋清一、一橋出版、2002年)
			『リサイクル型経済システムの構築について』(『社会科学論集』第85号、埼玉大学経済学会、1995年)
			『埼玉ゼロエミッション推進事業について』(『政策研究さいたま』第5号、埼玉県自治研修センター、1998年)
『家電リサイクル法における費用回収のあり方について』(『ユリスプルデンティア—国際比較法制研究—』第6号、現代法理論学会、1999年)			
『わが国の廃棄物処理における拡大生産者責任の軌跡と展望』(『人間と環境』3、岡崎学園国際短期大学、1999年)			
『わが国におけるEPRの内発的発展と展望』(『環境経済・政策学会2000年大会』報告要旨集、2000年)			
『拡大生産者責任の内発的発展と今後の展望—自治体と企業の役割はどう変化していくか—』(『月刊自治研』vol.42.no.494、2000年)			
『岡崎市のごみ問題と解決の方向について』(『人間と環境』5、人間環境大学、2003年)			
『産廃処理の構造転換における都道府県と市町村の役割』(『月刊自治研』vol.45.no.528、2003年)			

研究業績	学術論文	単著	『ビデオレンタル産業の廃棄物発生抑制対策について—エコケース開発の成功要因分析—』(『人間環境論集』第3号、人間環境大学、2004年)		
			『循環資源のアジア輸出に伴う諸問題について』(『人間環境論集』第5号、人間環境大学、2006年)		
			『日本の循環資源輸出と中国の循環型社会形成の現状』(『人間環境論集』第6号、人間環境大学、2007年)		
			『廃PETボトル市場の現状分析—アジア輸出の国内市場への影響—』(『環境情報科学論文集21』第21号、社団法人環境情報科学センター、2007年)		
			『使用済家電製品のアジア輸出と拡大生産者責任』(『社会科学論集』第124号、埼玉大学経済学部、2008年)		
			『循環型社会形成と物質循環の国際化—循環資源の国内循環と国際循環の最適化のための制度研究—』(東京大学大学院新領域創成科学研究科『博士論文』、2009年)		
			『拡大輸出者責任の数理計算について』(『人間環境論集』第9号、人間環境大学、2010年)		
			『日本の公害防止設備投資と汚染濃度との相関分析から見た中国の現段階—アジア途上国に対する公害防止支援の意義—』(『人間と環境』(電子版)3、人間環境大学、2012年)		
			『循環型社会のエネルギー』(『人間と環境』3、人間環境大学、2012年)		
			『人間環境の構造について』(『人間と環境』5、人間環境大学、2014年)		
	共著	ファーストオーサー	『使用済み製品の拡大輸出者責任制度の創設について』(『環境情報科学論文集22』第22号、共著者:松橋隆治、吉田好邦、2008年)		
		特別の役割			
		その他			
	確認された被引用論文 (引用論文、件数など)		『資源循環型社会の経済理論』(東海大学出版会、1996年)		
			『循環型社会の公共政策』(中央経済社、2002年)		
			『日本の公害防止設備投資と汚染濃度との相関分析から見た中国の現段階—アジア途上国に対する公害防止支援の意義—』(『人間と環境』(電子版)3、人間環境大学、2012年)		
	その他		『さいたま新都心共同集配送システム基本構想書』(埼玉県商工部、1999年)		
			『埼玉県における国際物流拠点整備のあり方について』(埼玉県商工部、1999年)		
			『環境型社会の形成に向けたビデオレンタル業界の社会的責任』(平成14年度中小企業活路開拓調査・実現化事業社会要請対応円滑化支援事業「エコケース普及委員会」報告書、2003年)		
		『食料自給率とバーチャルウォーター』(こーぷる Vol.11、2006年)			
		『循環型社会のこれまでとこれから』(愛知県建設業協会「ごみ・廃棄物と資源から循環型社会をめざして」、2006年)			
		『廃ペットボトルのアジア輸出』(こーぷる Vol.21、2006年)			
		『廃製品の輸出規制に「拡大輸出者責任」制度を』(東京新聞・中日新聞サンデー版コラム、2008年10月12日付け)			

	翻訳	
	教科書等	『地球環境問題概説』(『環境マインド養成講座第2部』、環境教育センター(大学学部教育における『環境教育』共通カリキュラム開発のための戦略的 大学連携事業)、2012年)
	外部研究資金 獲得状況 (学術振興会特別研究員など)	『循環資源のアジア輸出に伴うわが国の循環型社会形成への影響』(平成18年度～平成19年度科学研究費補助金(基盤C研究成果報告書))
	学術に関する受賞歴	東京大学大学院新領域創成科学研究科長賞(2009年)
	所属学会	環境経済・政策学会 エネルギー・資源学会 廃棄物資源循環学会
	社会的活動の状況	愛知県岡崎商工会議所街づくり委員会委員(2002年10月～2004年9月) 日本コンパクトディスク・ビデオレンタル商業組合エコケース普及委員会 委員長(2002年11月～2003年9月) 愛知県岡崎市廃棄物中間処理施設検討委員会委員(2003年1月～2012 年3月) 東京都新宿区区民会議学識委員(2005年4月～2007年3月) 埼玉県環境マネジメントシステム評価委員会委員(2007年1月～2010年3 月)
	大学設置・学校法人審議会 科目担当審査経歴 (科目、年月)	平成11年8月文部科学省教員資格審査において教員資格認定:人間環 境大学人間環境学部人間環境学科助教授、担当科目:資源循環型経済 社会論講義、資源循環型経済社会論特殊講義Ⅰ(循環型社会の経済理 論)、資源循環型経済社会論特殊講義Ⅱ(ゼロエミッション産業論)、資源 循環型経済社会論演習Ⅰ、資源循環型経済社会論演習Ⅱ、資源循環型 経済社会論プロゼミナール、基礎ゼミナール(3)、卒業論文 平成13年10月文部科学省大学院設置審議会の教員資格審査において 教員資格認定:人間環境大学大学院助教授、担当科目:資源循環型経 済社会特論 平成15年3月人間環境大学人事審議会において学部及び大学院教授資 格認定、 平成26年3月人間環境大学人事審議会において大学院演習資格認定: 資源循環型経済社会論演習
	担当科目	資源循環型社会概論 資源循環の経済学 資源循環の法律と政策 資源・エネルギーと文明 環境に配慮した企業経営 地球環境問題概説 演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 資源循環型経済社会特論(大学院) 資源循環型経済社会論演習(大学院)
	教育に関する特別の業績	

教員業績データベース(公表)

データ最終更新日 2015年7月7日

氏名	渡 昌弘		
専門	東洋史		
学位	文学修士		
学歴	1979年3月	愛知教育大学教育学部卒業	
	1979年4月	東北大学大学院文学研究科博士課程(前期)東洋史学専攻入学	
	1982年3月	東北大学大学院文学研究科博士課程(前期)東洋史学専攻修了	
	1982年4月	東北大学大学院文学研究科博士課程(後期)東洋史学専攻進学	
	1988年3月	東北大学大学院文学研究科博士課程(後期)東洋史学専攻退学	
研究業績	博士学位論文		
	5年以内の学術論文		元明交替と国子学政策の継承についての覚書(『民衆反乱と中華世界』、汲古書院、343～366頁、2012年)
	著書 (学術)	単著	
		共著	
	著書 (その他)	単著	
		共著	
	学術論文	元明交替と国子学政策の継承についての覚書(同上)	
		明代生員の徭役優免特権をめぐる(『東洋学』第97輯、54～67頁、1999年)	
		明代捐納入監概観(『集刊東洋学』第56号、20～35頁、1986年)	
	共著	ファーストオーサー	
		特別の役割	
		その他	
	確認された被引用論文(引用論文、件数など)		明代捐納入監概観(同上)(引用1件)
その他		書評・車恵媛著『秤の上の牧民官』(『東洋史研究』第71巻第1号、108～114頁、2012年)	
翻訳		朝鮮使節の海路朝貢路と海神信仰―『燕行録』の分析を通じて―(『海域世界の環境と文化』、汲古書院、81～118頁、2011年)	
教科書等			
外部研究資金			

獲得状況 (学術振興会特別研究員など)	
学術に関する受賞歴	
所属学会	東方学会 東洋史研究会 東北史学会
社会的活動の状況	教員免許状更新講習講座担当(2014年8月)
大学設置・学校法人審議会 科目担当審査経歴 (科目、年月)	教員資格審査(人間環境大学人間環境学部助教授。中国社会文化論講義、アジアの歴史ほか。1999年8月)
担当科目	中国の文学Ⅰ・Ⅱ アジアの歴史 中国語Ⅰ
教育に関する特別の業績	